

# 平成28年7-9月期の産業活動

輸送機械工業など主要業種のけん引によって  
2四半期連続で前期比プラスとなった鉱工業生産、  
対事業所サービスの堅調さを受けて  
3四半期連続で前期比プラスの第3次産業活動



経済産業省  
経済解析室

平成28年12月

# 本稿における留意事項

1. 本稿における年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。
2. 四半期別伸び率寄与度は、特記しない限り前期比伸び率に対する寄与度である。なお、個々の系列毎に季節調整を行っているため、内訳の寄与度の積み上げと全体の伸び率は一致しないことがある。

# 目次

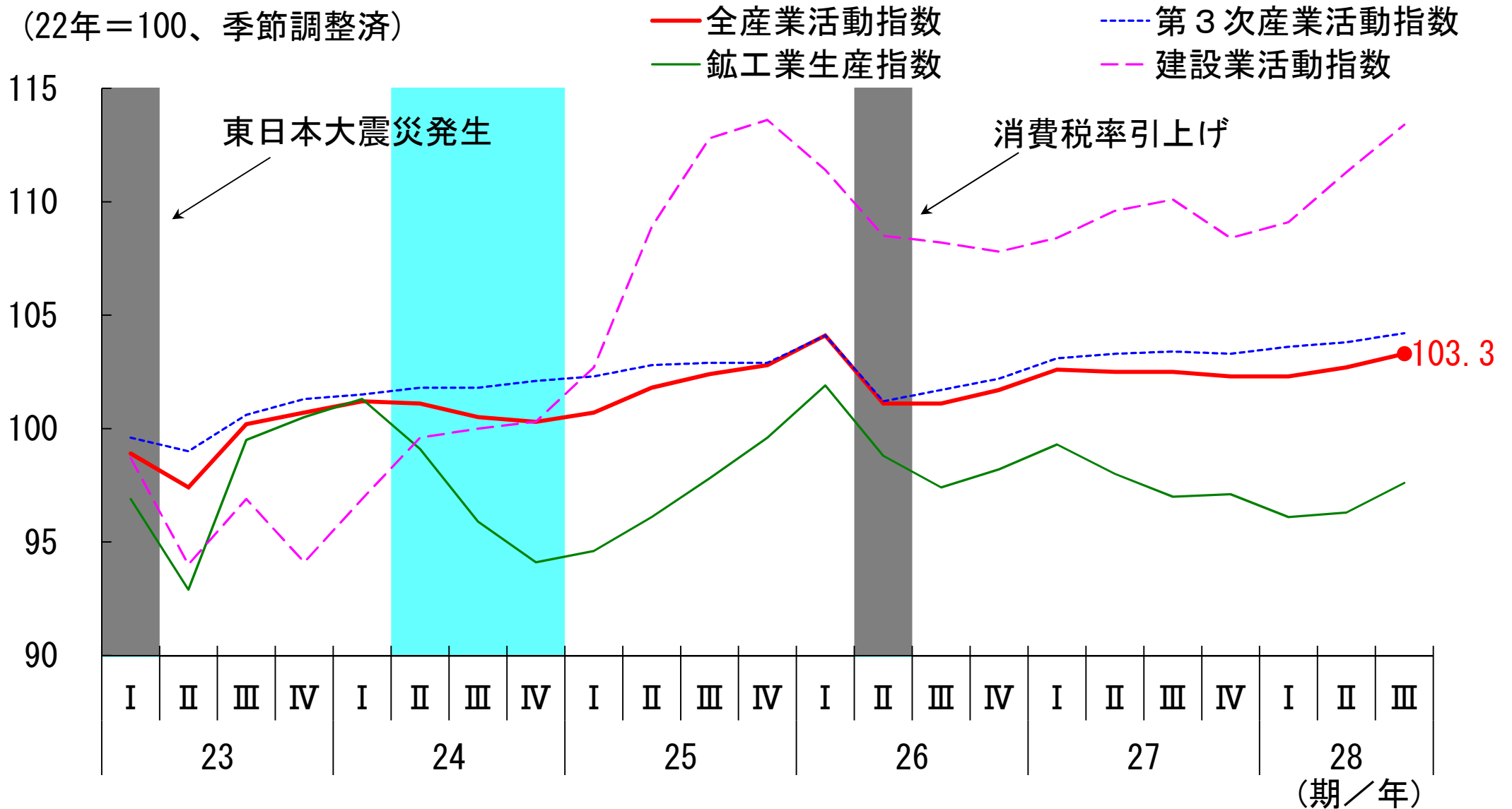
全産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	1 ページ
鉱工業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	7 ページ
第3次産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	35 ページ
建設業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	55 ページ

# 全産業活動の動向

# 全産業活動指数の動向

・平成28年7-9月期の全産業活動指数は103.3(前期比0.6%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)



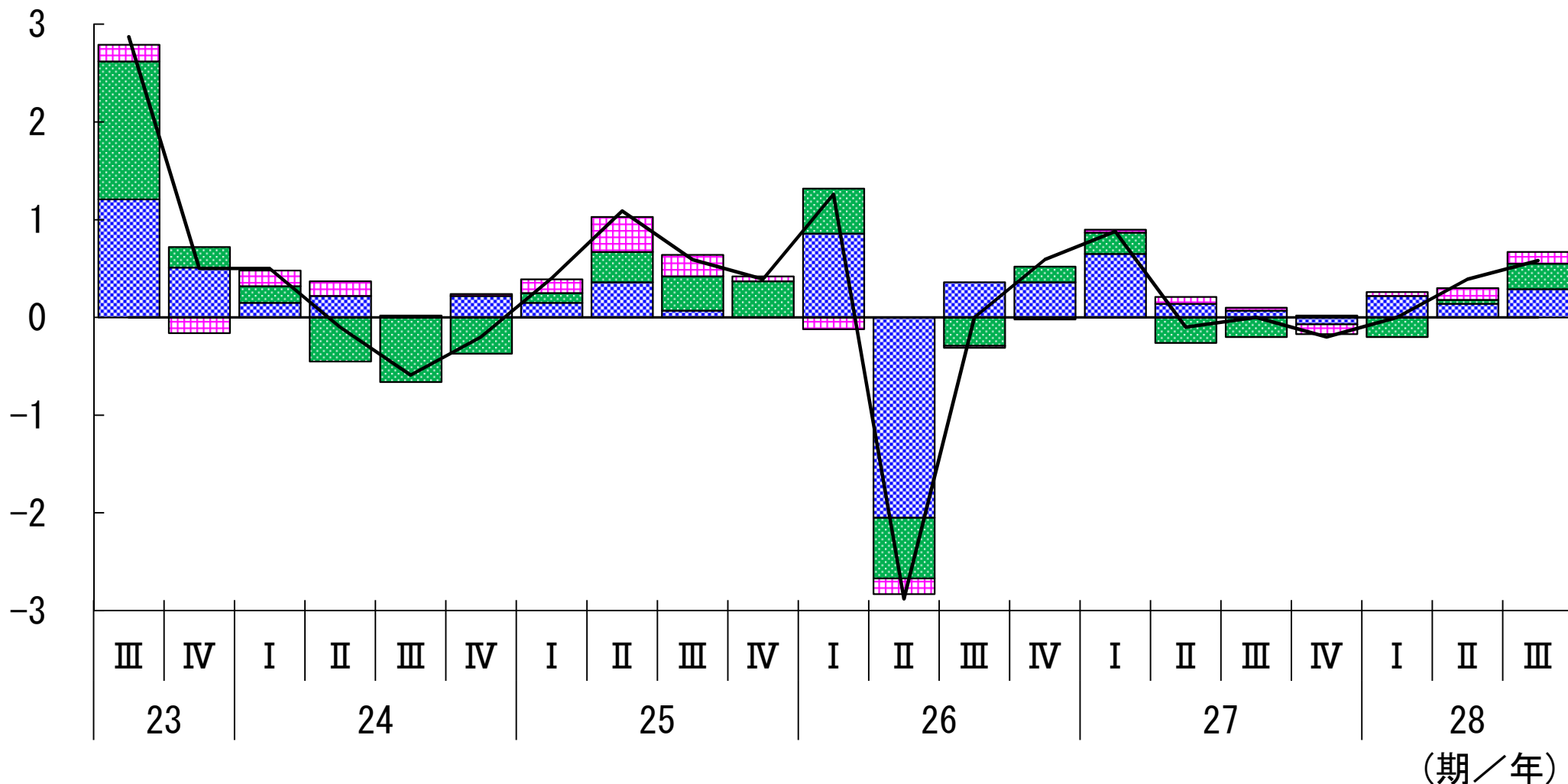
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

# 全産業活動指数への産業活動別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の全産業活動指数は第3次産業活動などが上昇したため、前期比0.6%の上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

■建設業活動 ■鉱工業活動 ■第3次産業活動 —全産業活動

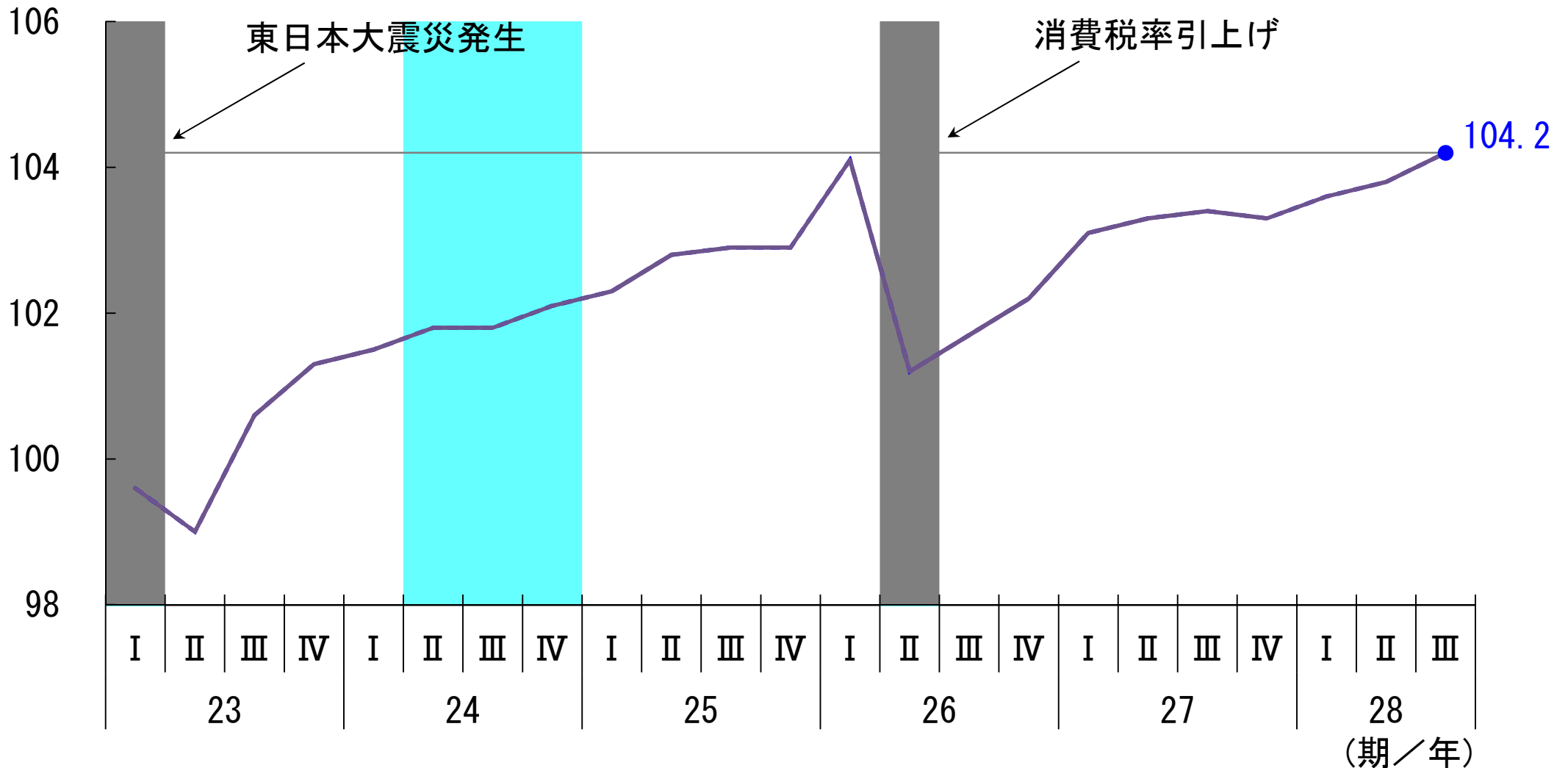


(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

# 第3次産業活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の第3次産業活動指数は104.2(前期比0.4%)と3期連続の上昇。
- ・平成20年4-6月期の104.5以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

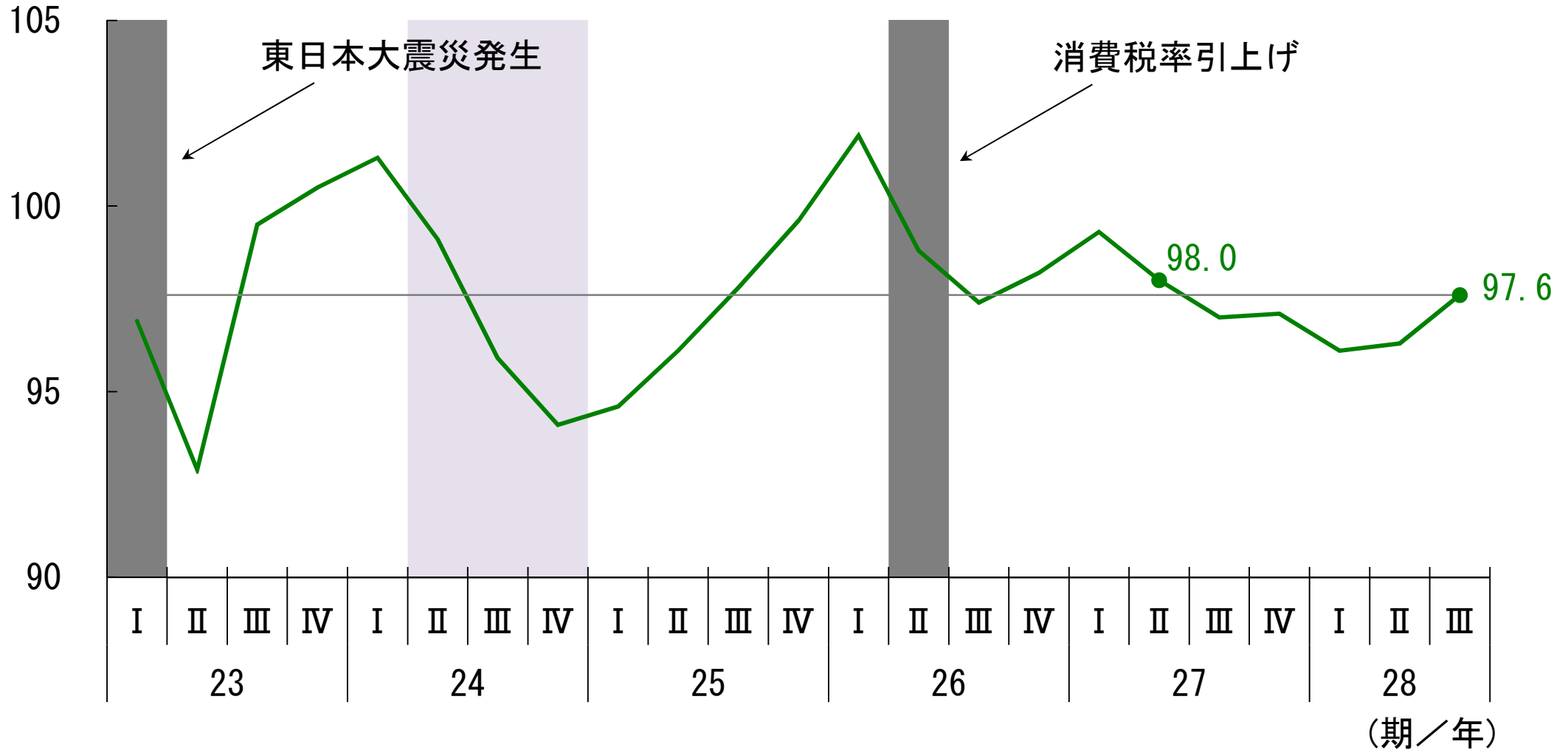


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 鋳工業生産指数の動向

- ・平成28年7-9月期の鋳工業生産指数は97.6(前期比1.3%)と2期連続の上昇。
- ・平成27年4-6月期の98.0以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 1. 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標。  
 2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

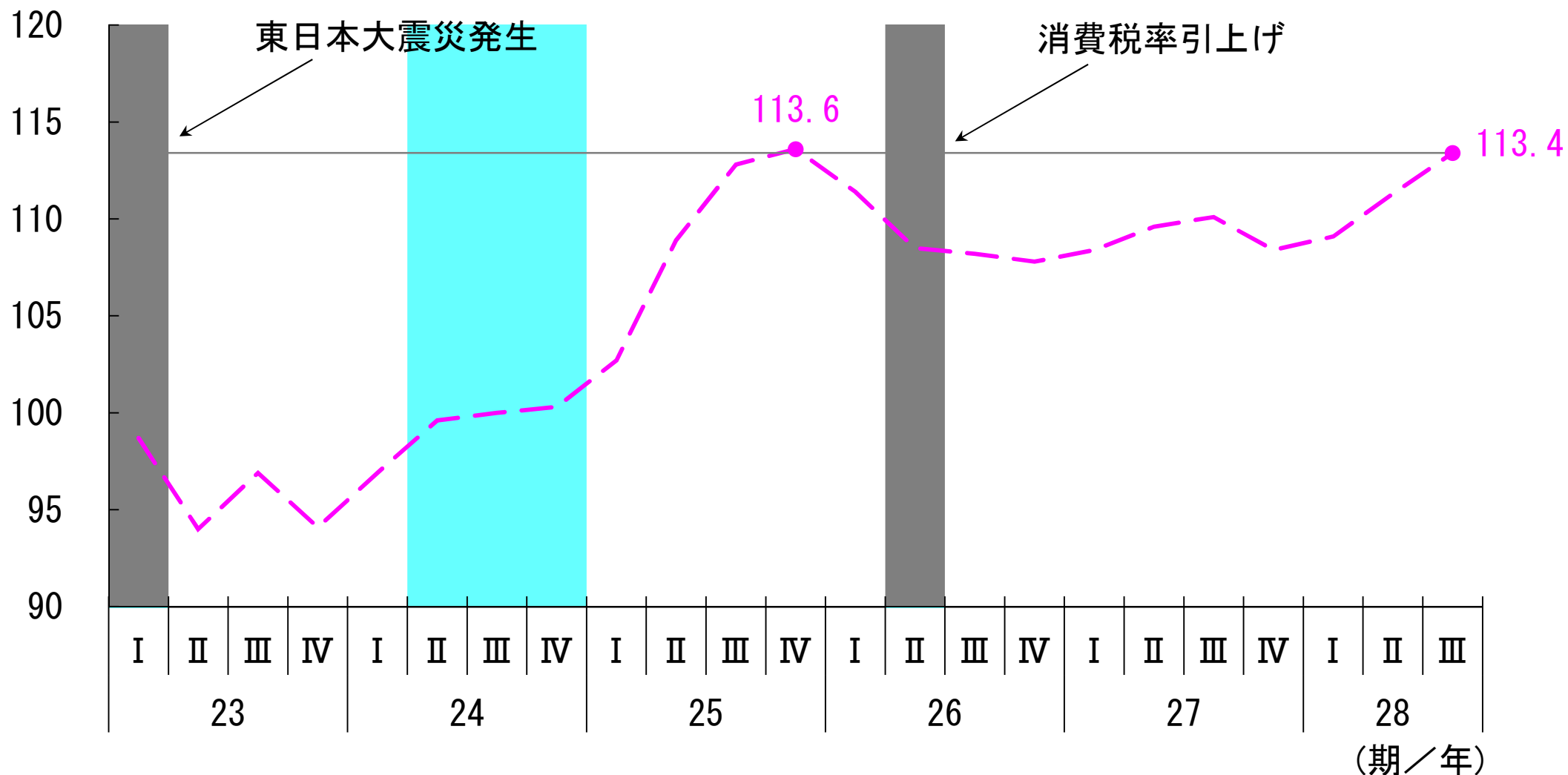
(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。



# 建設業活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の建設業活動指数は113.4(前期比1.9%)と3期連続の上昇。
- ・平成25年10-12月期の113.6以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

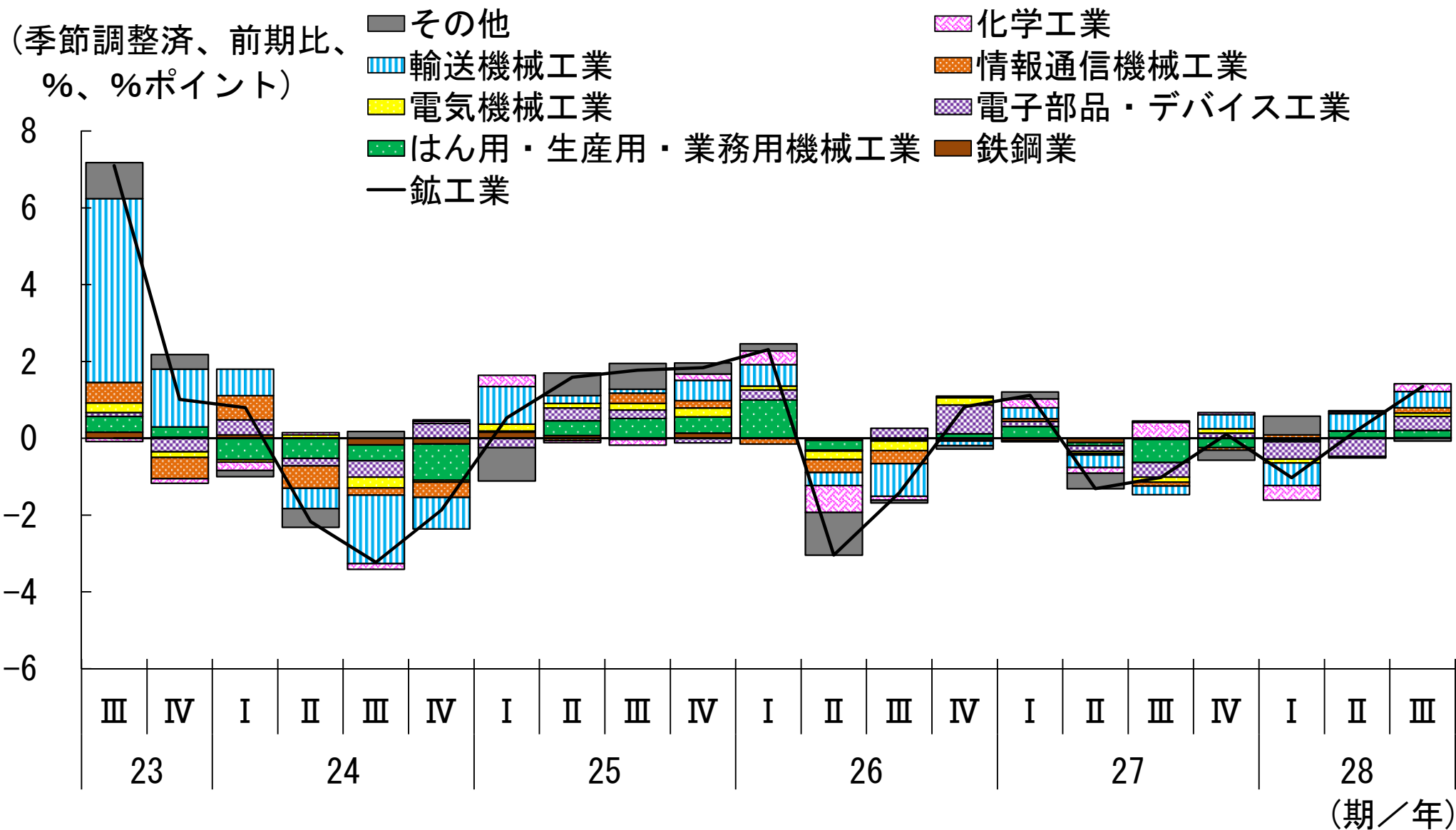
# 鉦工業活動の動向

# 平成28年7-9月期の鉱工業活動の状況

指数名	指数水準	前期比(%)	指数の動き	過去の水準
鉱工業生産指数	97.6	1.3	2期連続の上昇	平成27年4-6月期の98.0以来
鉱工業出荷指数	95.6	0.7	2期連続の上昇	平成27年10-12月期の96.6以来
輸出向け	97.5	0.4	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の97.8以来
国内向け	95.3	1.2	2期連続の上昇	平成27年10-12月期の96.6以来
鉱工業総供給指数	98.9	1.0	3期ぶりの上昇	平成27年10-12月期の100.4以来
国産	95.4	1.1	2期連続の上昇	平成27年10-12月期の96.7以来
輸入	111.8	0.8	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の117.2以来
鉱工業在庫指数	110.9	-2.6	2期連続の低下	平成26年4-6月期の110.1以来
鉱工業在庫率指数	115.3	-1.0	6期ぶりの低下	平成27年10-12月期の114.9以来
製造工業生産能力指数	94.5	-0.1	3期連続の低下	平成22年基準最低水準
機械工業	95.7	0.0	横ばい	—
非機械工業	92.7	-0.3	20期連続の低下	平成22年基準最低水準
製造工業稼働率指数	97.2	1.9	3期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の97.3以来
機械工業	96.3	2.3	3期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の96.8以来
非機械工業	98.4	0.9	4期ぶりの上昇	平成27年10-12月期の98.6以来

# 鉱工業生産指数への業種別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の生産指数は輸送機械工業などが上昇したため、前期比1.3%の上昇。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

# 平成28年7-9月期の鉱工業生産指数を大きく動かした品目（全体・業種別）

## <全体>

		品目名	前期比	寄与率
鉱工業生産を上昇方向 に引っ張った3品目	1位	乗用車	5.1%	27.6%
	2位	半導体・フラットパネル製造装置	14.8%	22.9%
	3位	電子部品	5.4%	14.9%
鉱工業生産を低下方向 に引っ張った3品目	1位	清涼飲料	-8.6%	-13.7%
	2位	建設用金属製品	-12.2%	-6.8%
	3位	航空機	-4.7%	-4.8%

## <業種別>

		業種・品目名	前期比	寄与率
鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	輸送機械工業	2.1%	30.9%
	品目	乗用車	5.1%	27.6%
		自動車部品	2.8%	14.0%
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	4.6%	26.4%
	品目	電子部品	5.4%	14.9%
		集積回路	6.5%	14.1%
鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	3位の業種	化学工業	1.6%	14.7%
	品目	医薬品	2.2%	4.6%
		化粧品	2.0%	4.5%
	1位の業種	食料品・たばこ工業	-2.6%	-12.8%
	品目	清涼飲料	-8.6%	-13.7%
		酒類	-2.7%	-3.0%
	2位の業種	金属製品工業	-2.9%	-8.7%
	品目	建設用金属製品	-12.2%	-6.8%
		その他の金属製品	-0.9%	-1.1%
	3位の業種	石油・石炭製品工業	-3.3%	-4.2%
品目	石油製品	-3.4%	-4.3%	

寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

# 平成28年7-9月期の鉱工業生産への財別・業種別の変動寄与

財別分類	解説	財別分類・業種名	前期比	寄与率
鉱工業用生産財	鉱工業製品の原材料として投入される製品	<b>鉱工業用生産財</b>	<b>1.7%</b>	<b>56.7%</b>
		電子部品・デバイス工業	4.6%	26.1%
		輸送機械工業	1.4%	8.7%
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など家計で購入される製品	<b>耐久消費財</b>	<b>2.8%</b>	<b>21.1%</b>
		輸送機械工業	4.6%	22.7%
		情報通信機械工業	10.2%	8.0%
資本財（除. 輸送機械）	クレーンや金属工作機械など設備投資に向けられる製品	<b>資本財（除. 輸送機械）</b>	<b>1.3%</b>	<b>15.0%</b>
		はん用・生産用・業務用機械工業	0.9%	7.6%
		電気機械工業	3.6%	6.9%
その他用生産財	鉱工業以外の製品の原材料として投入される製品	<b>その他用生産財</b>	<b>0.3%</b>	<b>1.0%</b>
		プラスチック製品工業	3.0%	1.0%
		電気機械工業	8.3%	0.3%
非耐久消費財	食料品や衣料品など家計で購入される製品	<b>非耐久消費財</b>	<b>-0.5%</b>	<b>-5.2%</b>
		食料品・たばこ工業	-3.0%	-12.7%
		石油・石炭製品工業	-4.2%	-1.8%
建設財	鉄骨やセメントなど建設投資に向けられる製品	<b>建設財</b>	<b>-1.2%</b>	<b>-5.2%</b>
		金属製品工業	-3.9%	-6.8%
		電気機械工業	-2.4%	-0.7%

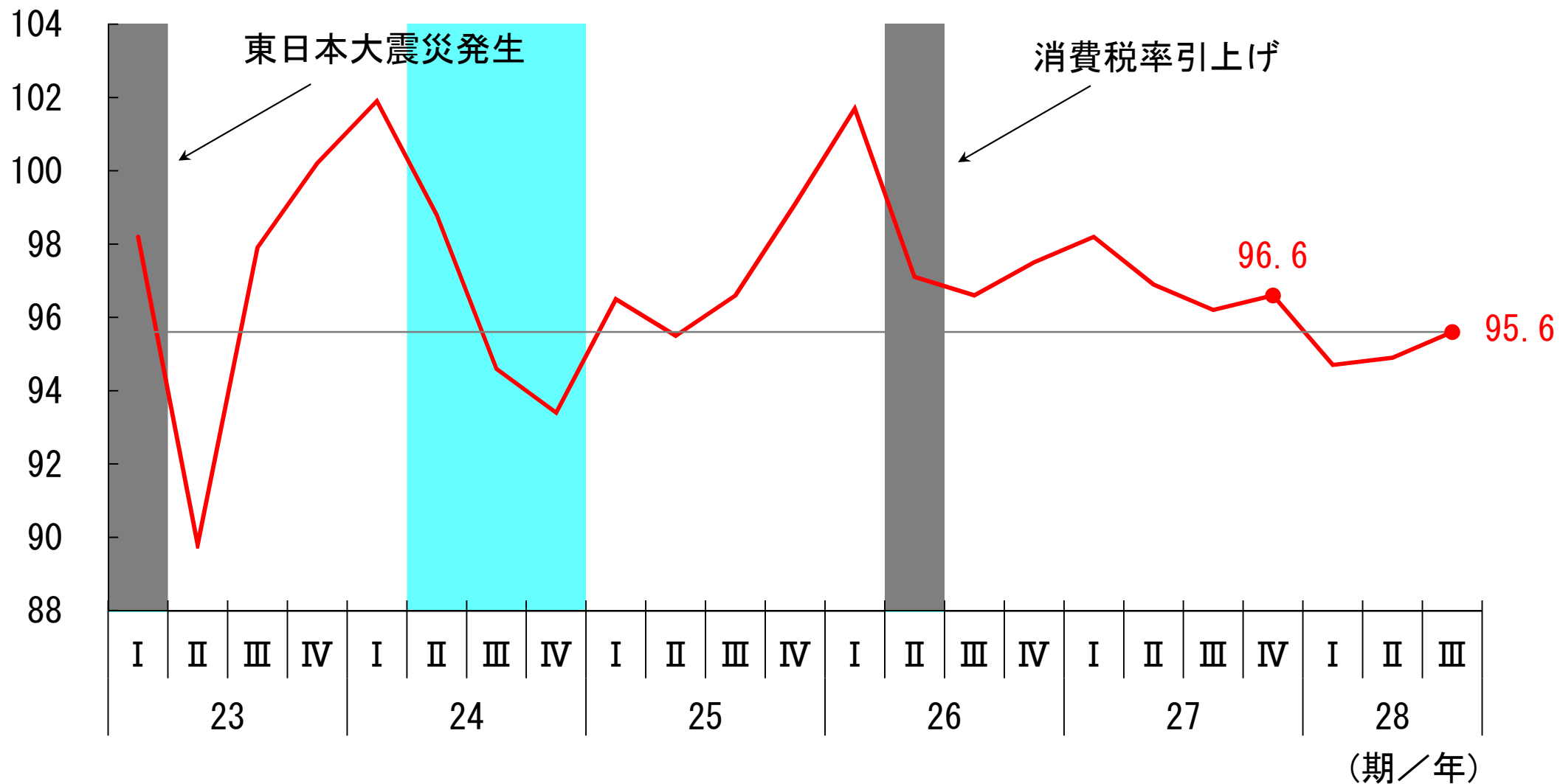
寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

# 鋳工業出荷指数の動向

- ・平成28年7-9月期の鋳工業出荷指数は95.6(前期比0.7%)と2期連続の上昇。
- ・平成27年10-12月期の96.6以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

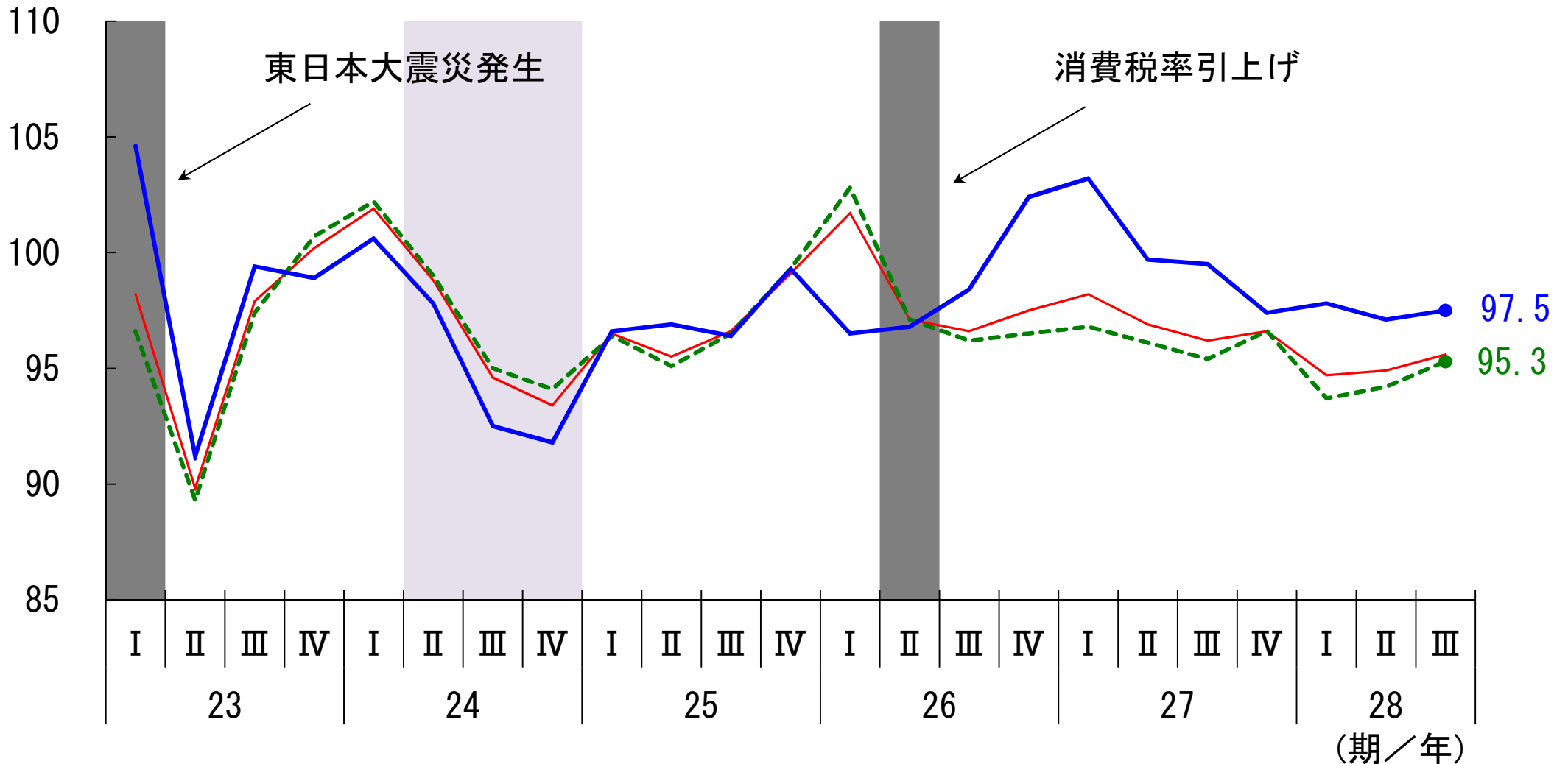
(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

# 国内向け／輸出向け出荷の動向

・平成28年7-9月期の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは95.3(前期比1.2%)と2期連続の上昇、輸出向けは97.5(前期比0.4%)と2期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)

— 鉱工業出荷    - - - 国内向け    — 輸出向け



(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

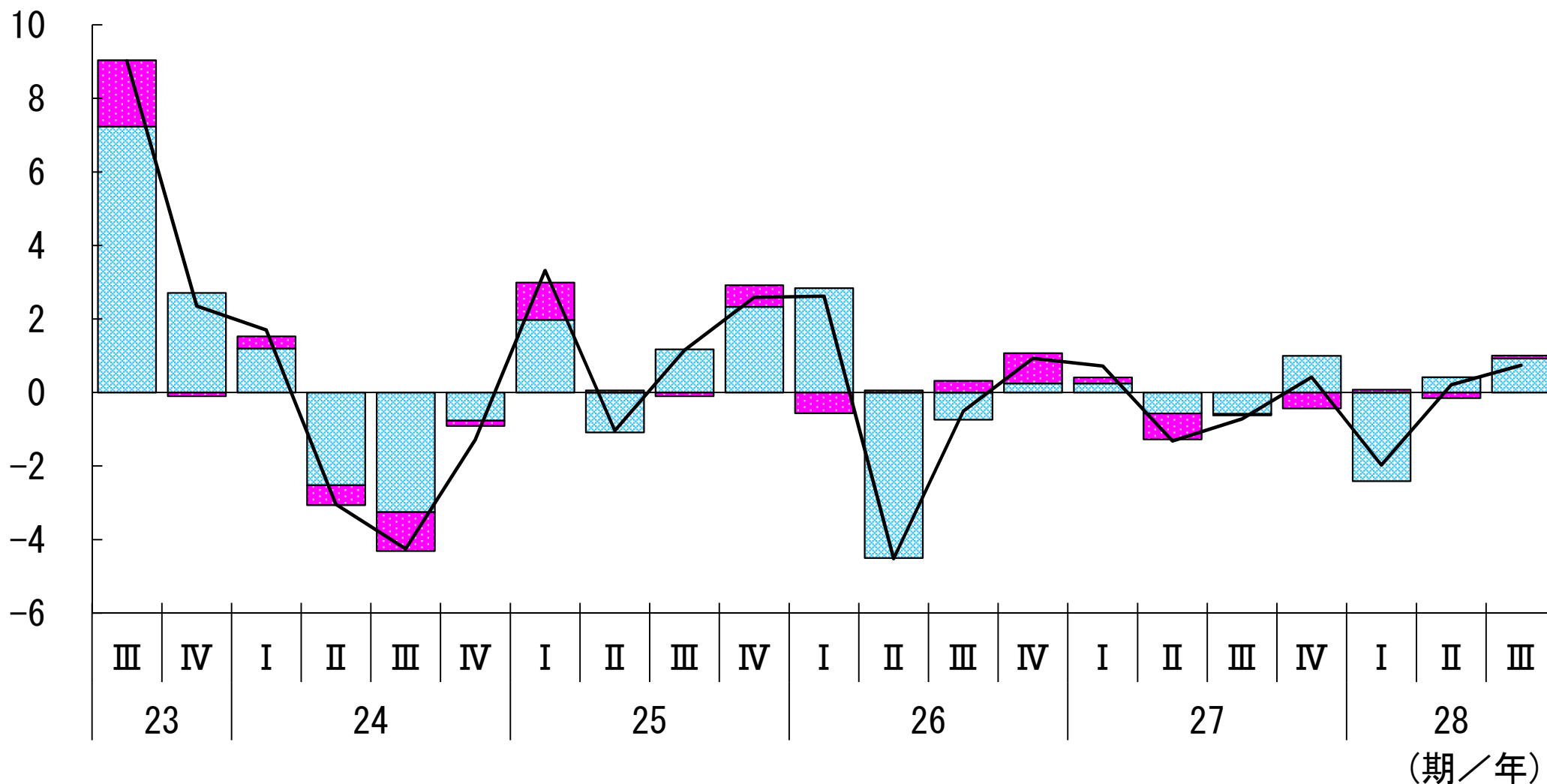


# 鋳工業出荷への国内向け／輸出向け別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の鋳工業出荷は、国内向け、輸出向けともに上昇したため、前期比0.7%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

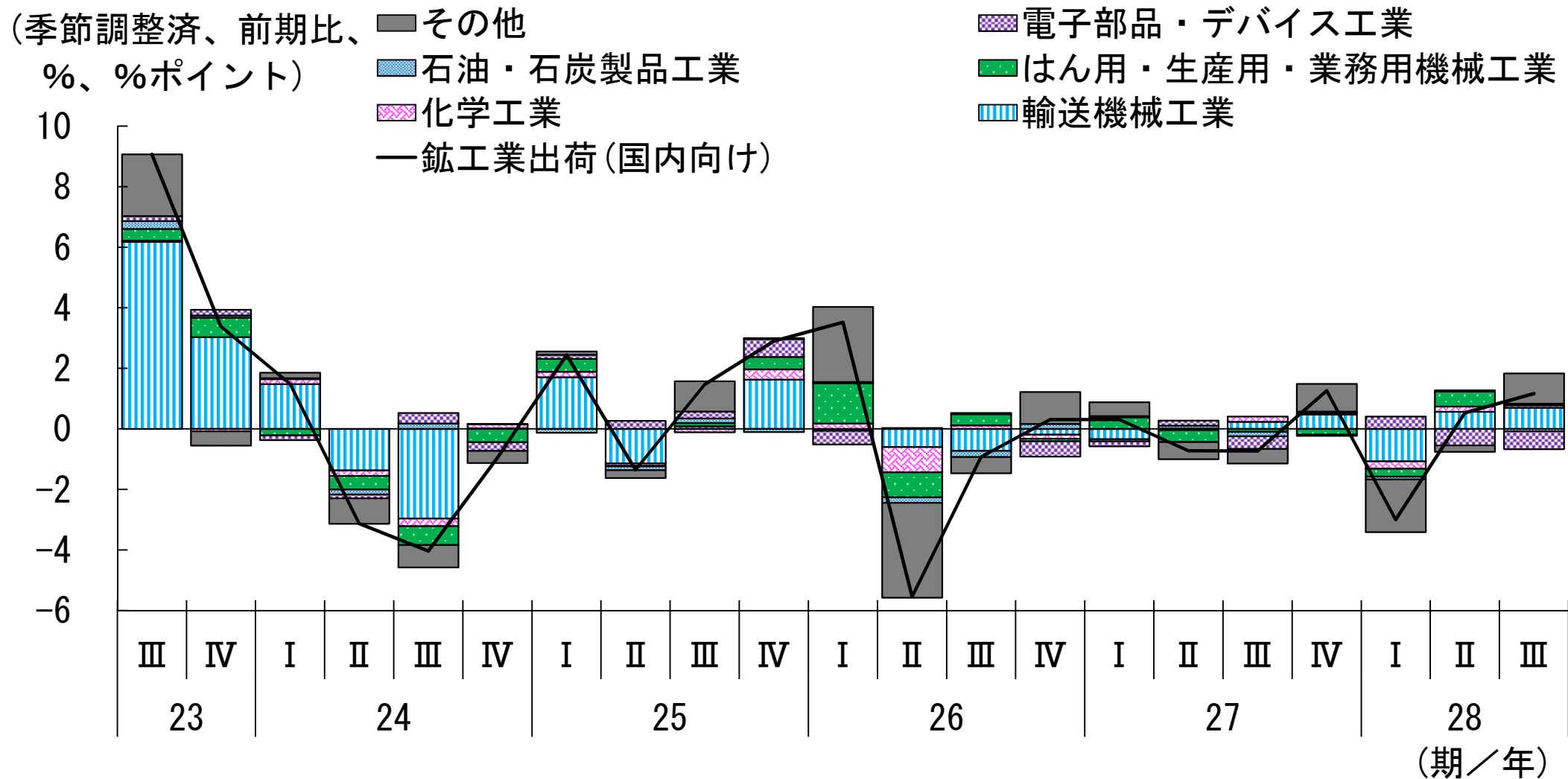
■ 輸出向け ■ 国内向け — 鋳工業出荷



(資料) 経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

# 国内向け出荷への業種別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の国内向け出荷を、主要業種別にみると、電子部品・デバイス工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇。



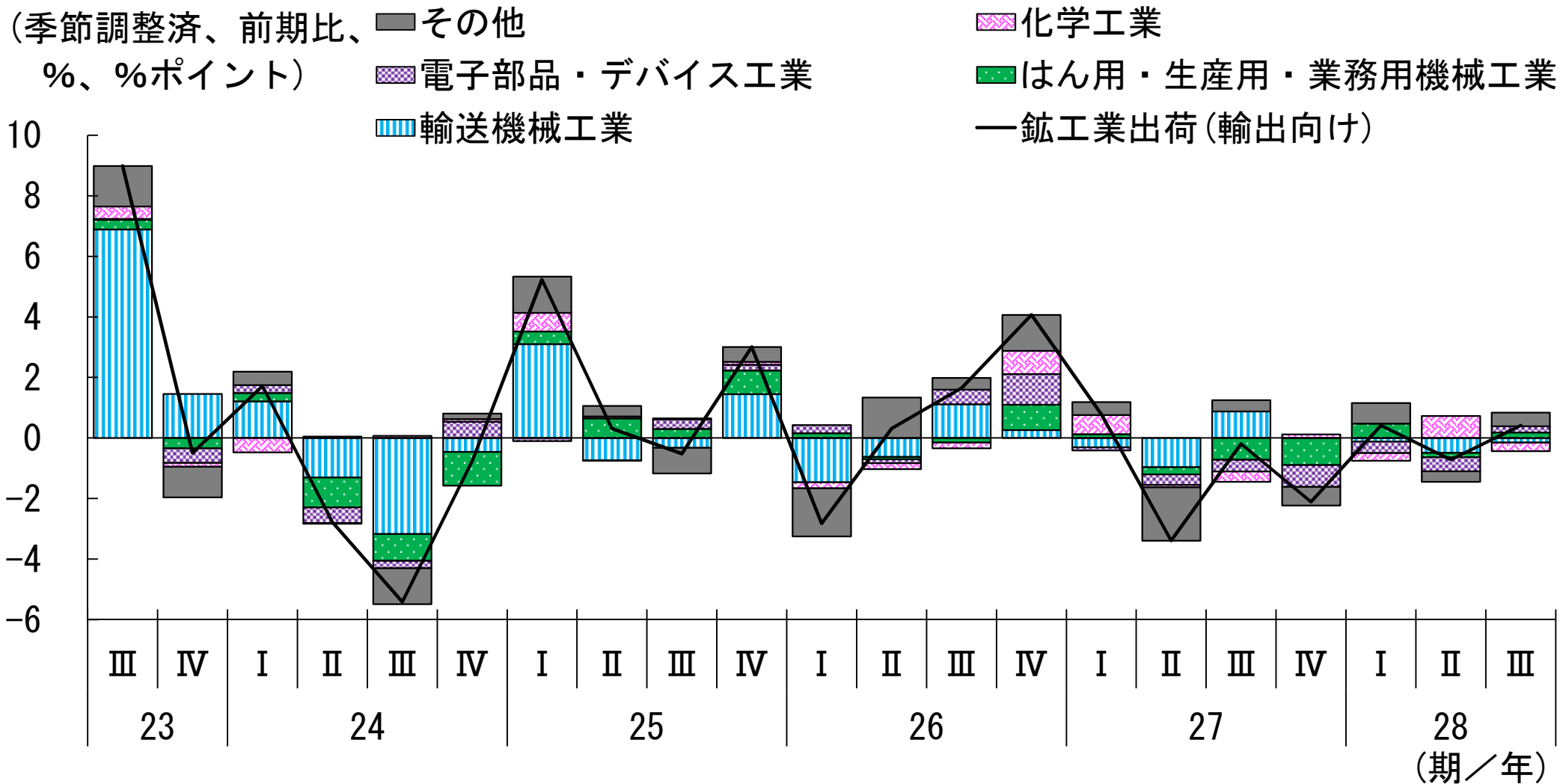
(注) 主要業種とは、国内向け出荷(ウェイト8028.51)のうち、ウェイトが大きい5業種を選定。

具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウェイト1658.38)、化学工業(同、同860.84)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)の5業種。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 輸出向け出荷への業種別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の輸出向け出荷を、主要業種別にみると、化学工業などが低下したものの、電子部品・デバイス工業などが上昇。



(注) 主要業種とは、輸出向け出荷(ウェイト1971.49)のうち、ウェイトが大きい業種(上位4業種)を選定。

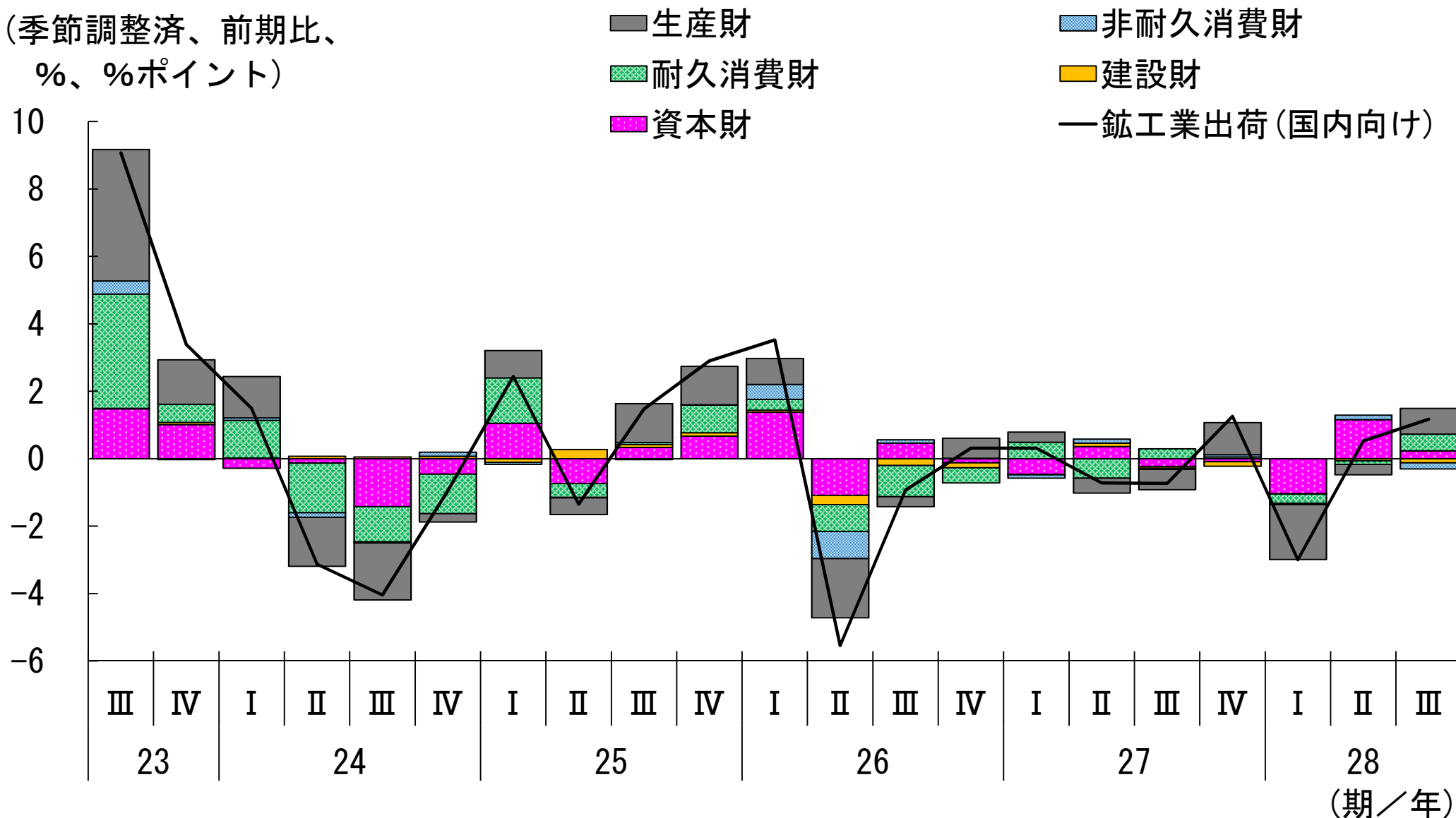
具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウェイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(同、同180.06)の4業種。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 国内向け出荷への財別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の国内向け出荷を、財別にみると、非耐久消費財などが低下したものの、生産財などが上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

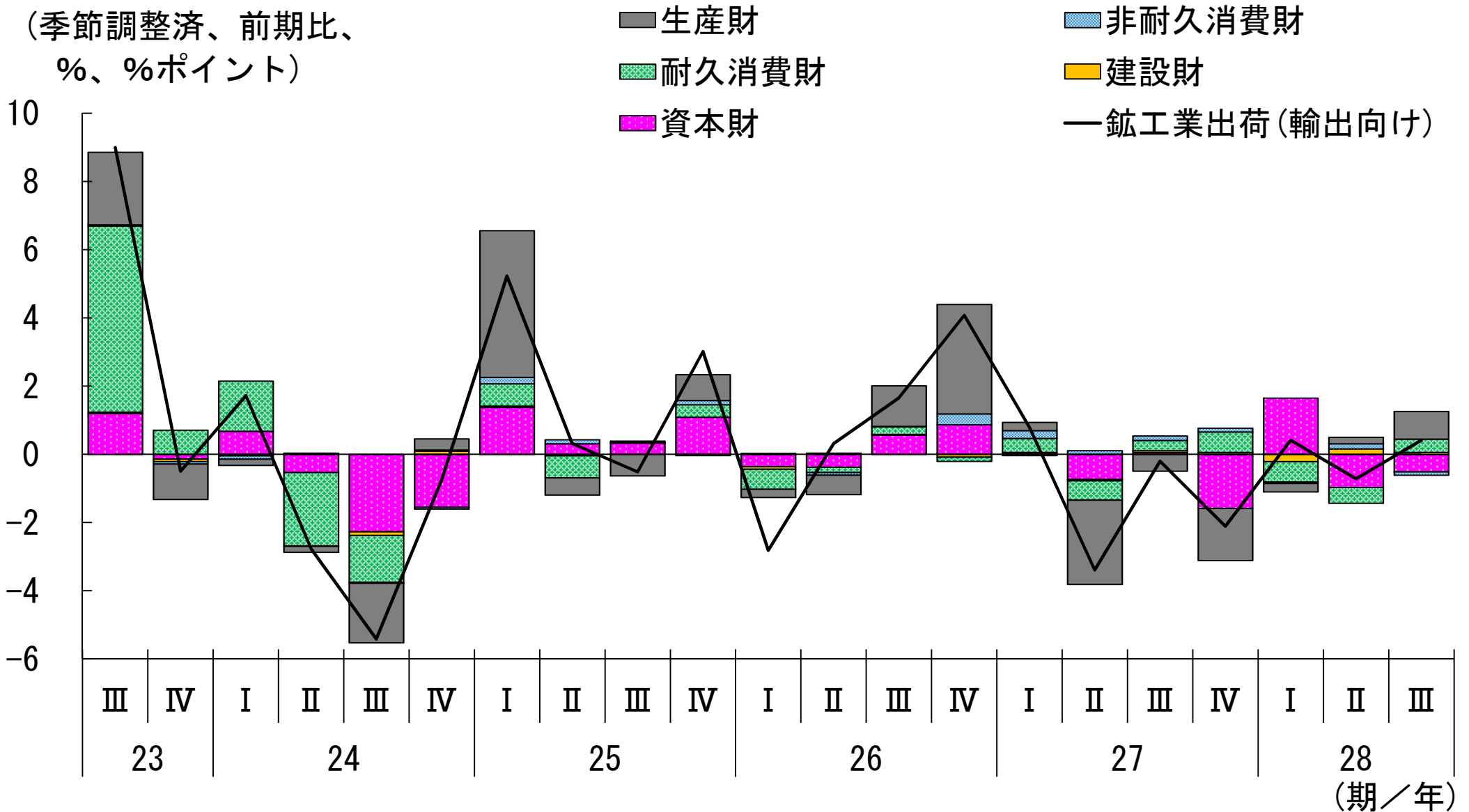


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 輸出向け出荷への財別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の輸出向け出荷を、財別にみると、資本財などが低下したものの、生産財などが上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 平成28年7-9月期の国内向け出荷への財別・業種別の変動寄与

財別分類	前期比(%)	寄与率(%)
<b>鉱工業</b>	<b>1.2</b>	<b>126.2</b>
<b>鉱工業用生産財</b>	<b>1.6</b>	<b>72.6</b>
電子部品・デバイス工業	6.0	41.4
輸送機械工業	3.2	23.4
<b>耐久消費財</b>	<b>3.9</b>	<b>54.4</b>
輸送機械工業	4.4	43.8
電気機械工業	7.1	9.3
<b>資本財</b>	<b>1.2</b>	<b>24.9</b>
電気機械工業	4.8	11.1
はん用・生産用・業務用機械工業	0.6	6.7
<b>その他用生産財</b>	<b>0.9</b>	<b>5.1</b>
化学工業	57.1	1.7
プラスチック製品工業	3.7	1.6
<b>建設財</b>	<b>-1.9</b>	<b>-13.1</b>
金属製品工業	-2.5	-7.4
鉄鋼業	-2.7	-2.4
<b>非耐久消費財</b>	<b>-1.2</b>	<b>-19.2</b>
食料品・たばこ工業	-2.3	-15.2
石油・石炭製品工業	-1.8	-4.8

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(注)試算値。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 平成28年7-9月期の輸出向け出荷への財別・業種別の変動寄与

財別分類	前期比(%)	寄与率(%)
<b>鉱工業</b>	<b>0.4</b>	<b>11.3</b>
<b>鉱工業用生産財</b>	<b>1.7</b>	<b>27.3</b>
電気機械工業	5.1	5.9
鉄鋼業	3.4	5.9
<b>耐久消費財</b>	<b>3.0</b>	<b>10.6</b>
輸送機械工業	4.4	13.0
その他工業	2.7	0.5
<b>建設財</b>	<b>3.0</b>	<b>1.6</b>
プラスチック製品工業	17.3	2.7
はん用・生産用・業務用機械工業	38.8	0.3
<b>非耐久消費財</b>	<b>-2.9</b>	<b>-2.7</b>
石油・石炭製品工業	-29.8	-3.3
化学工業	-1.0	-0.4
<b>その他用生産財</b>	<b>-4.9</b>	<b>-4.8</b>
石油・石炭製品工業	-6.7	-3.4
金属製品工業	-27.4	-1.2
<b>資本財</b>	<b>-2.5</b>	<b>-14.0</b>
輸送機械工業	-8.5	-13.5
情報通信機械工業	-2.0	-0.5

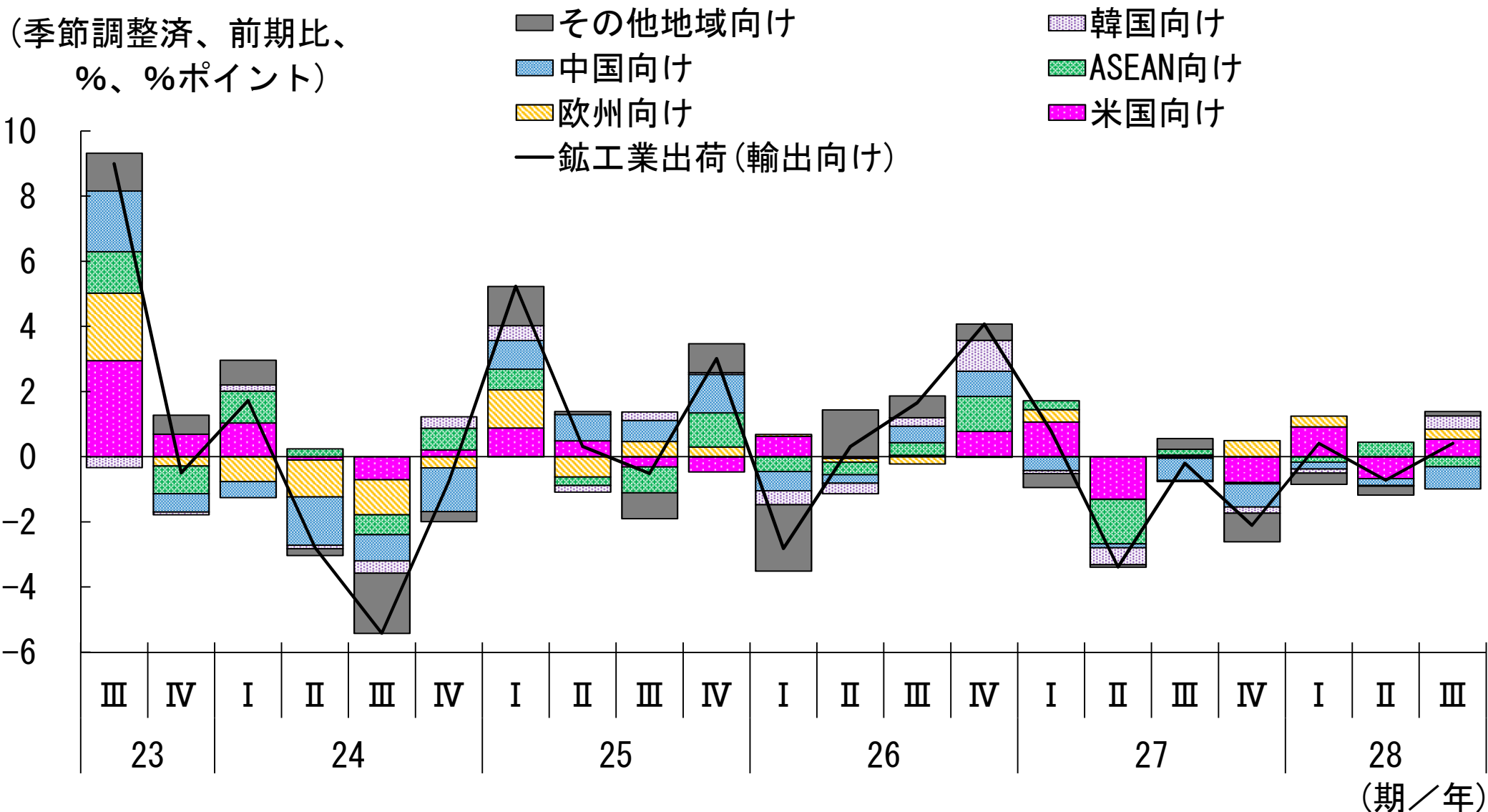
寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(注)試算値。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

# 輸出向け出荷への地域別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の輸出向け出荷を、地域別にみると、中国向けなどが低下したものの、米国向けなどが上昇。



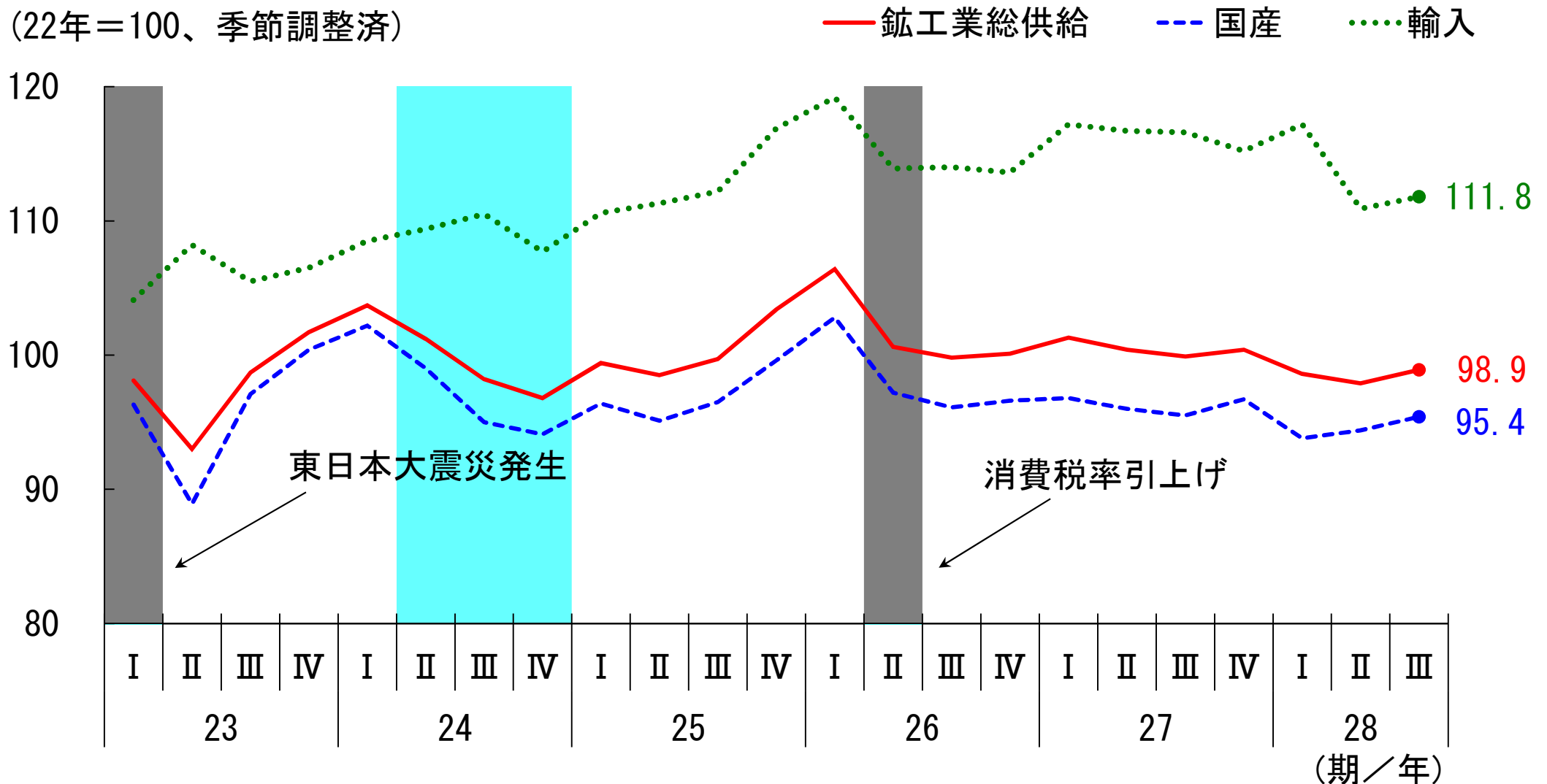
(注) 試算値。  
(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。



# 鉍工業総供給指数の動向

- ・平成28年7-9月期の鉍工業総供給指数は98.9(前期比1.0%)と3期ぶりの上昇。
- ・内訳をみると、国産は95.4(前期比1.1%)と2期連続の上昇、輸入は111.8(前期比0.8%)と2期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)

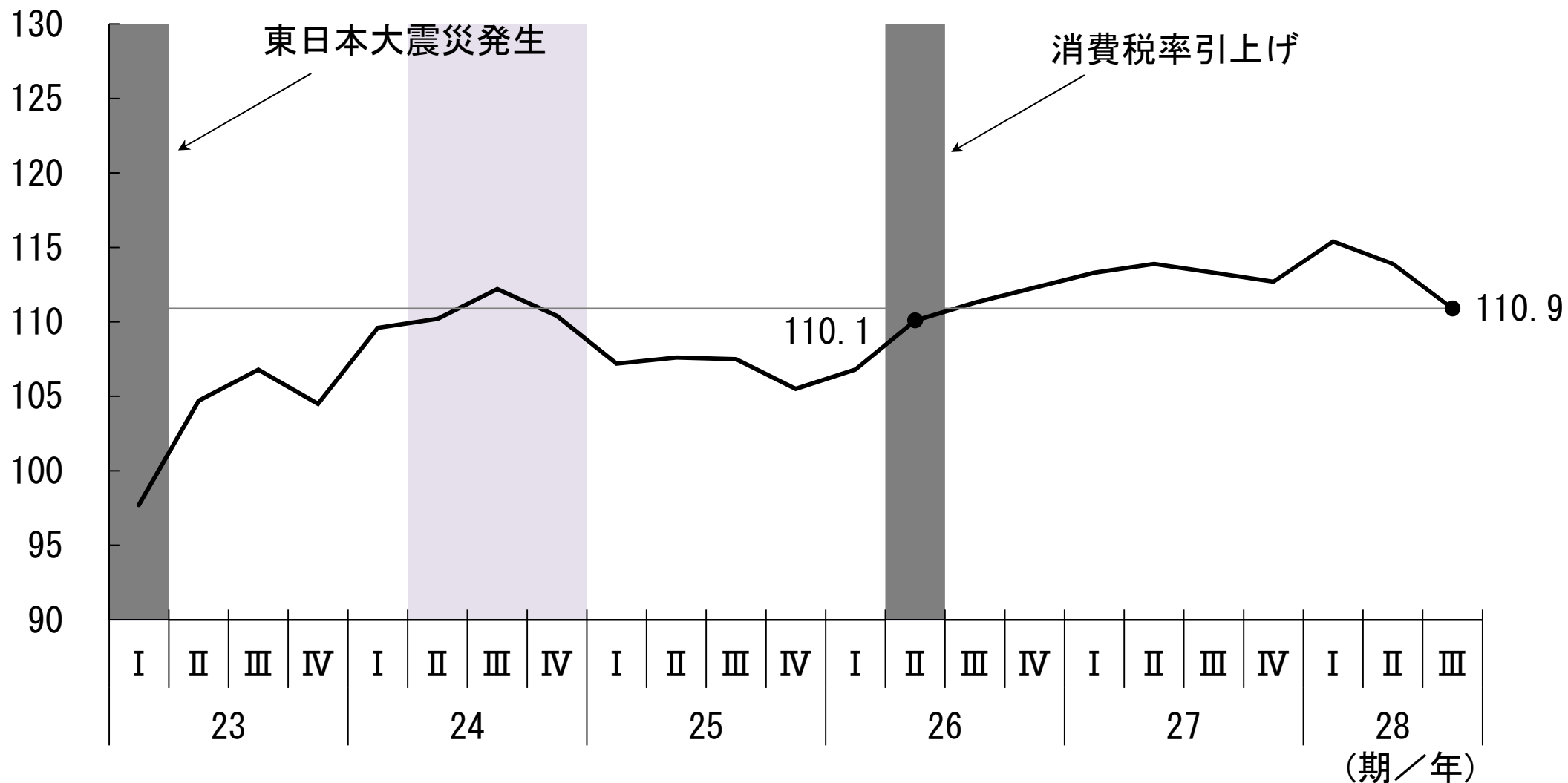


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「鉍工業総供給表」より作成。

# 鉱工業在庫指数の動向

- ・平成28年7-9月期の在庫指数は110.9(前期比-2.6%)と2期連続の低下。
- ・平成26年4-6月期の110.1以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



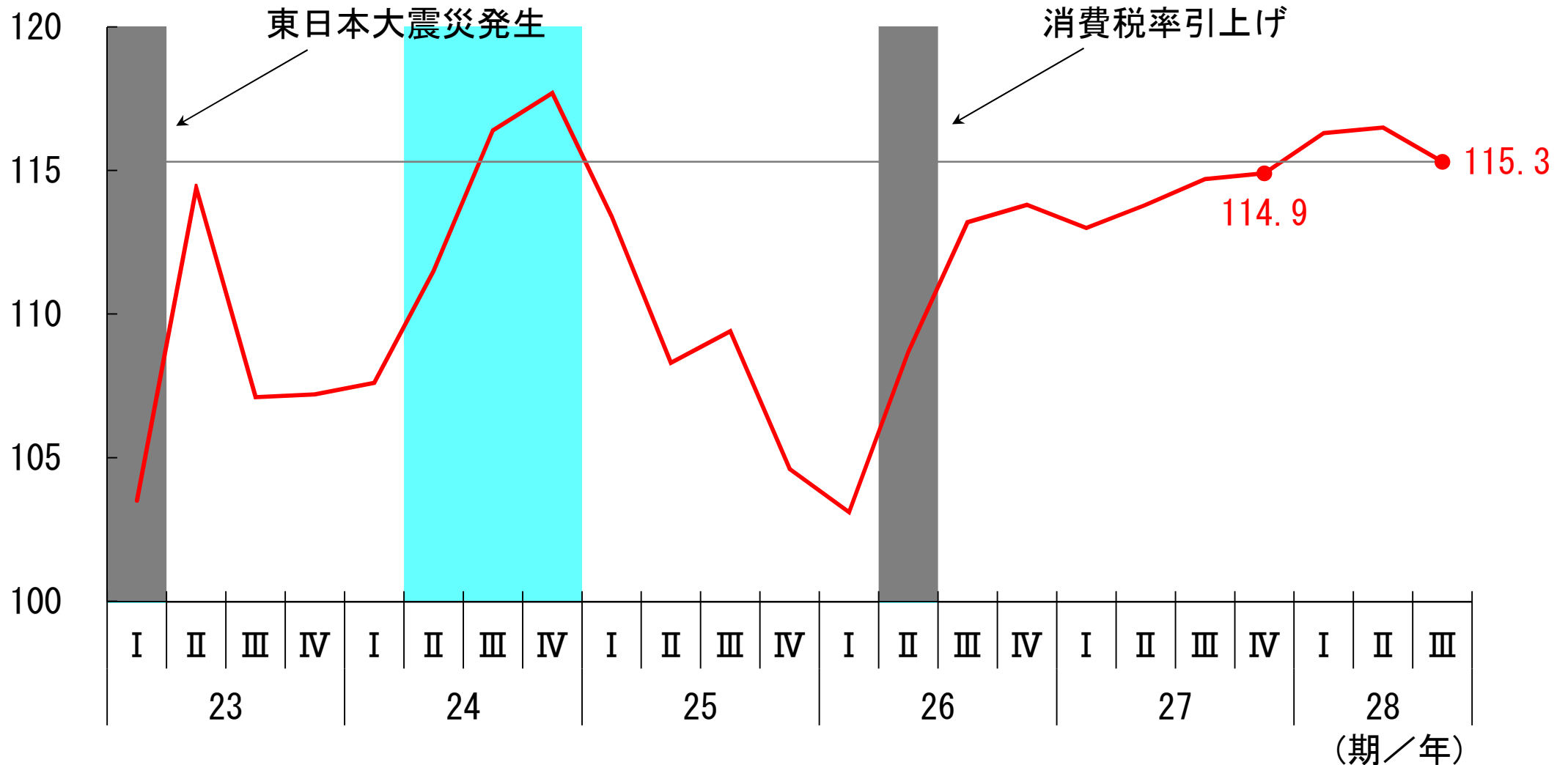
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

# 鋳工業在庫率指数の動向

- ・平成28年7-9月期の在庫率指数は115.3(前期比-1.0%)と6期ぶりの低下。
- ・平成27年10-12月期の114.9以来の指数水準。

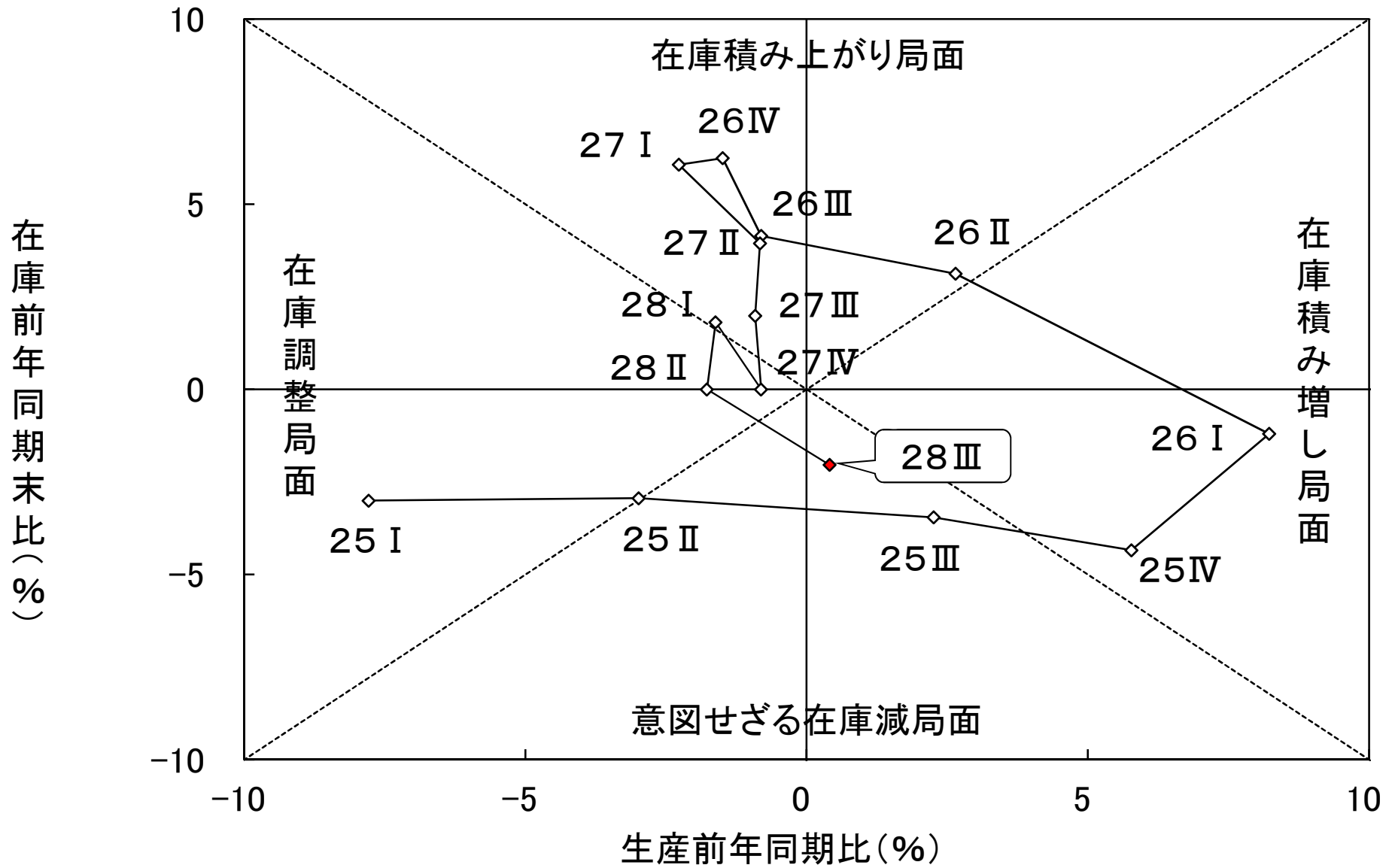
(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

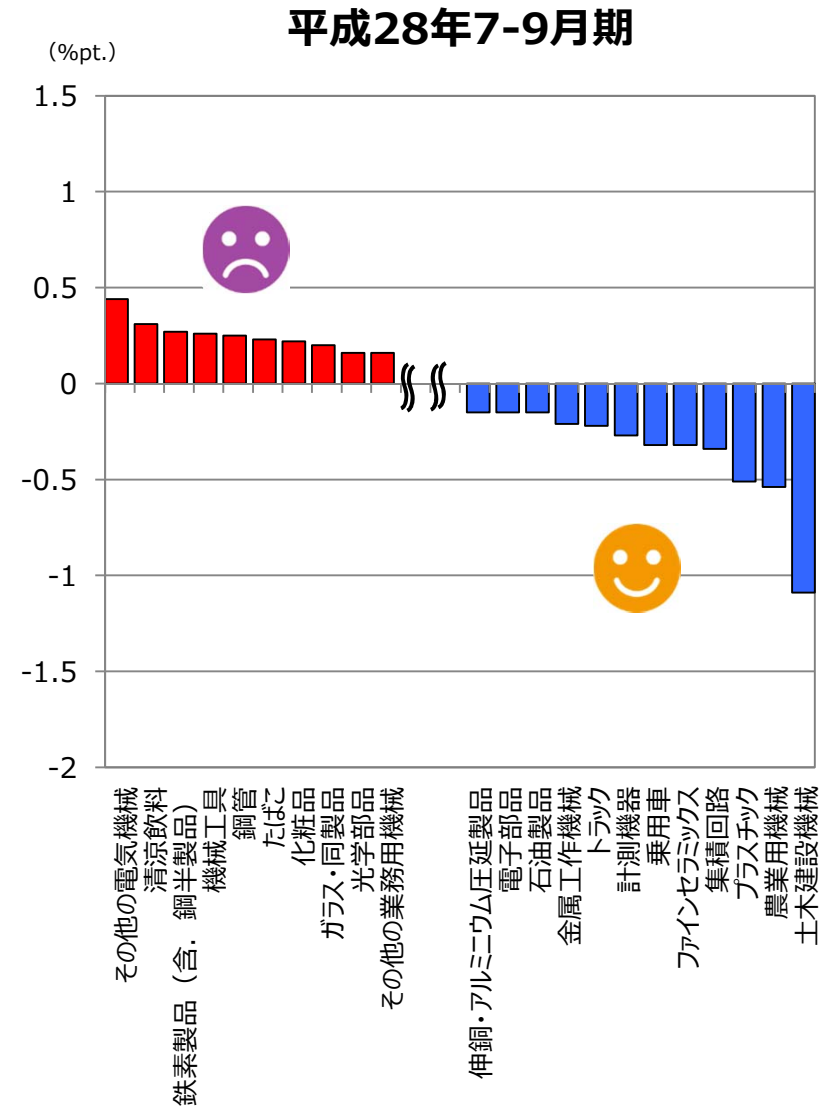
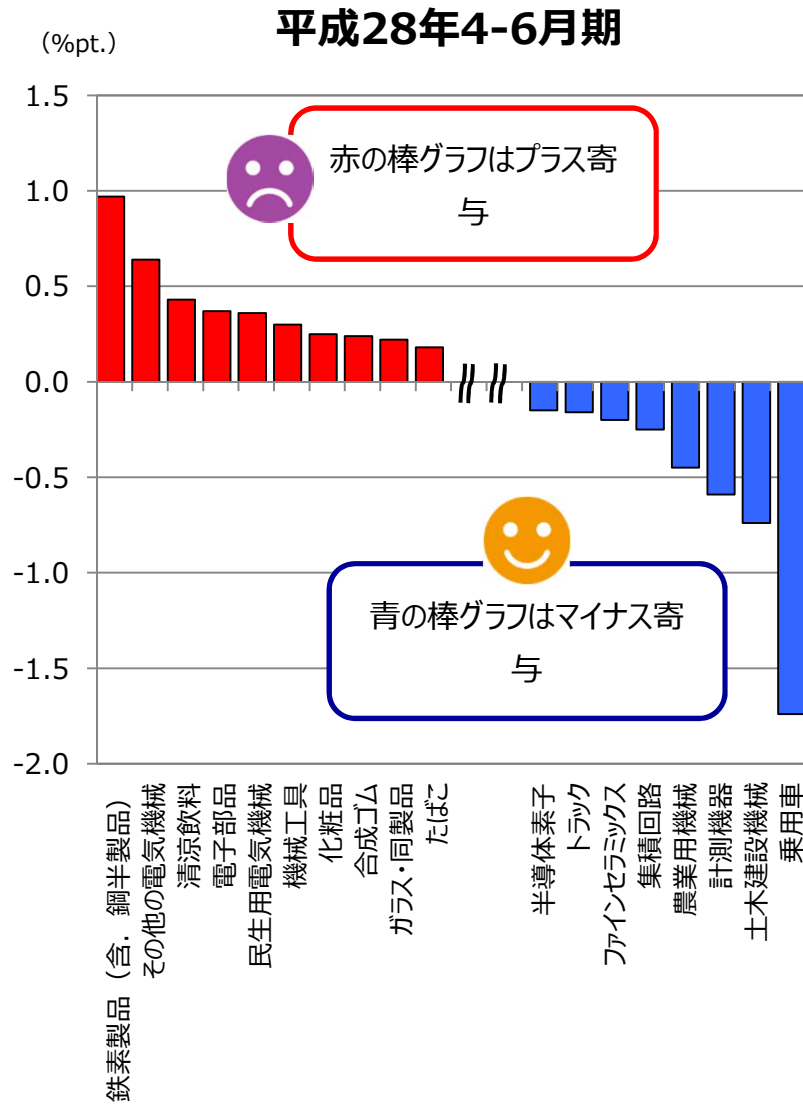
(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

# 鋳工業の在庫循環図



(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

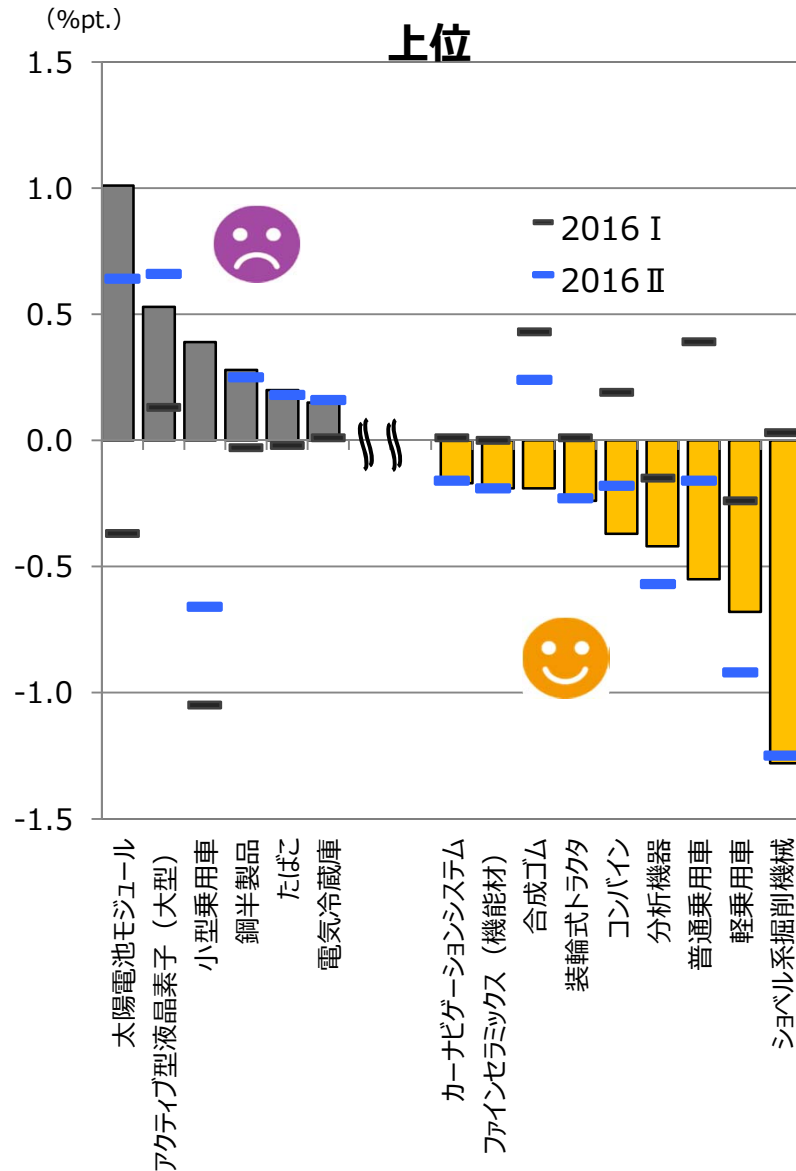
# 在庫の業種細分類別 前年同期寄与度



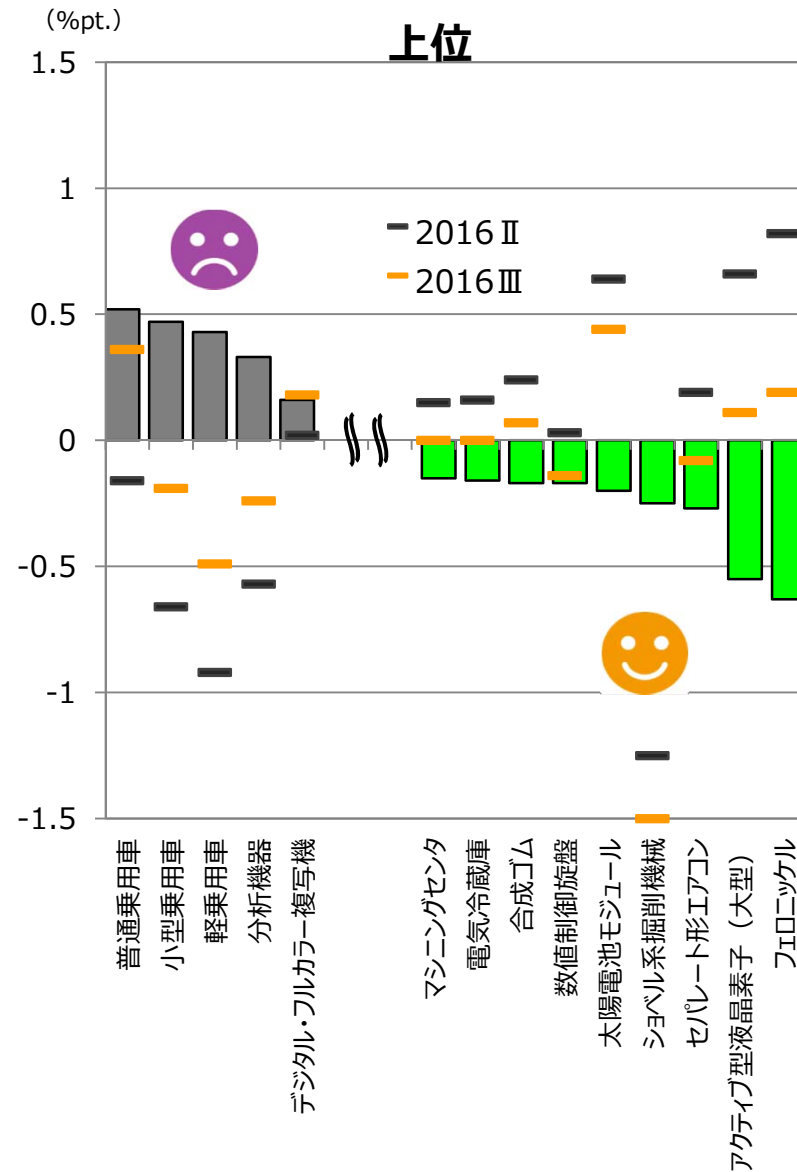
(注) -0.1%pt.~+0.1%pt.については掲載略

# 在庫の品目別 前年同期寄与度

## 平成28年4-6月期と1-3月期の差



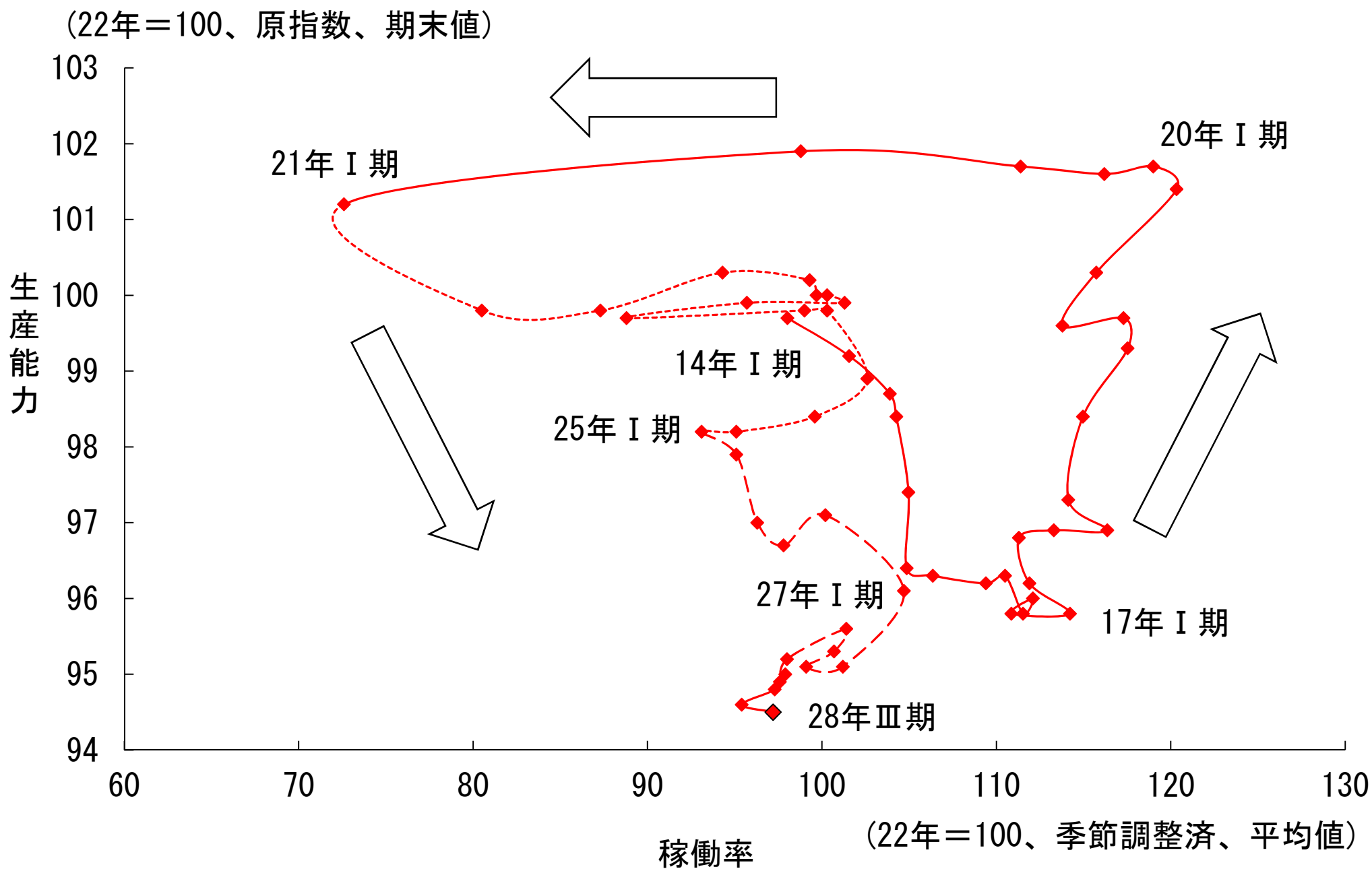
## 平成28年7-9月期と4-6月期の差



(注) -0.1%pt.~+0.1%pt.については掲載略

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

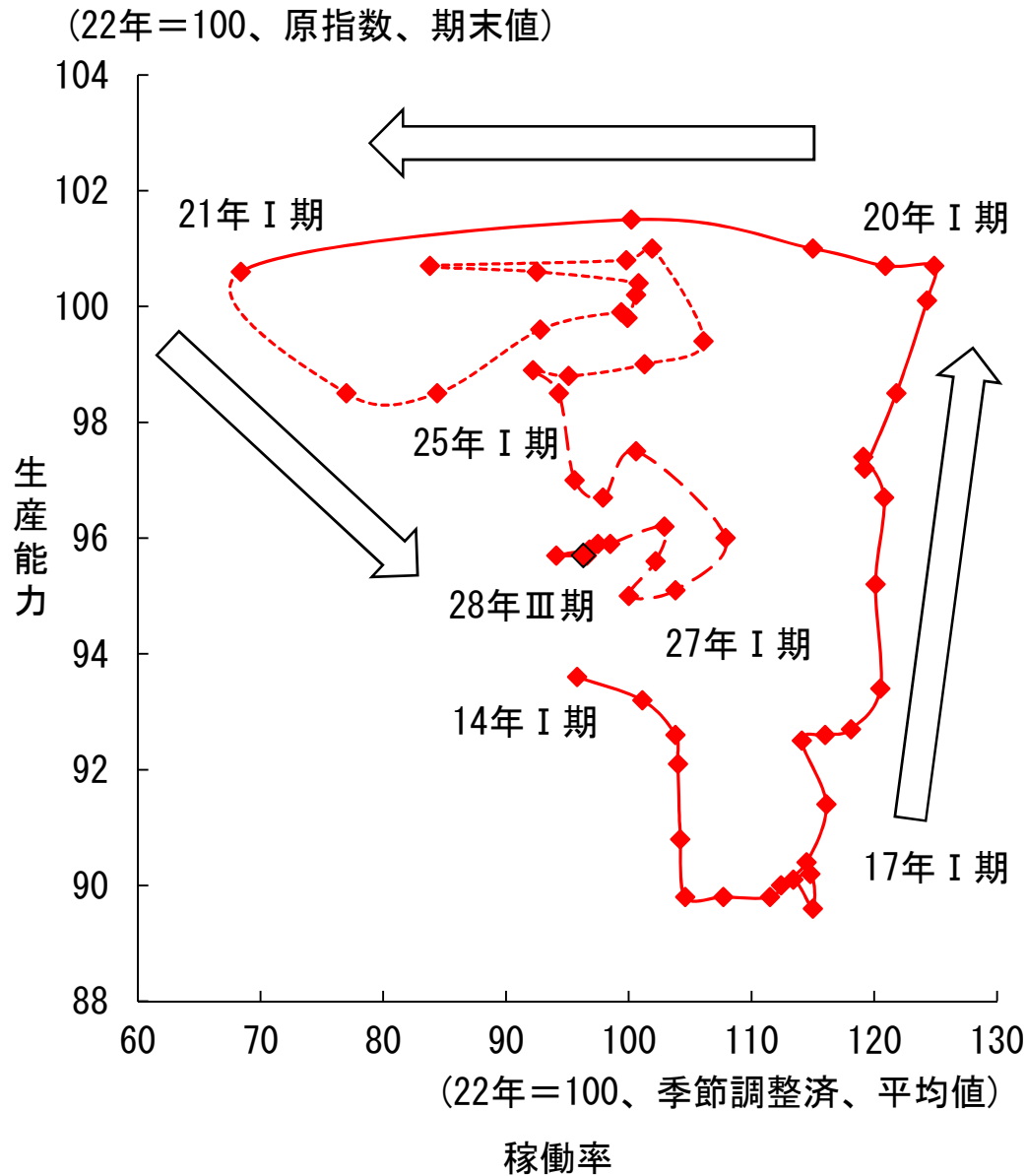
# 稼働率と生産能力の循環図(製造工業)



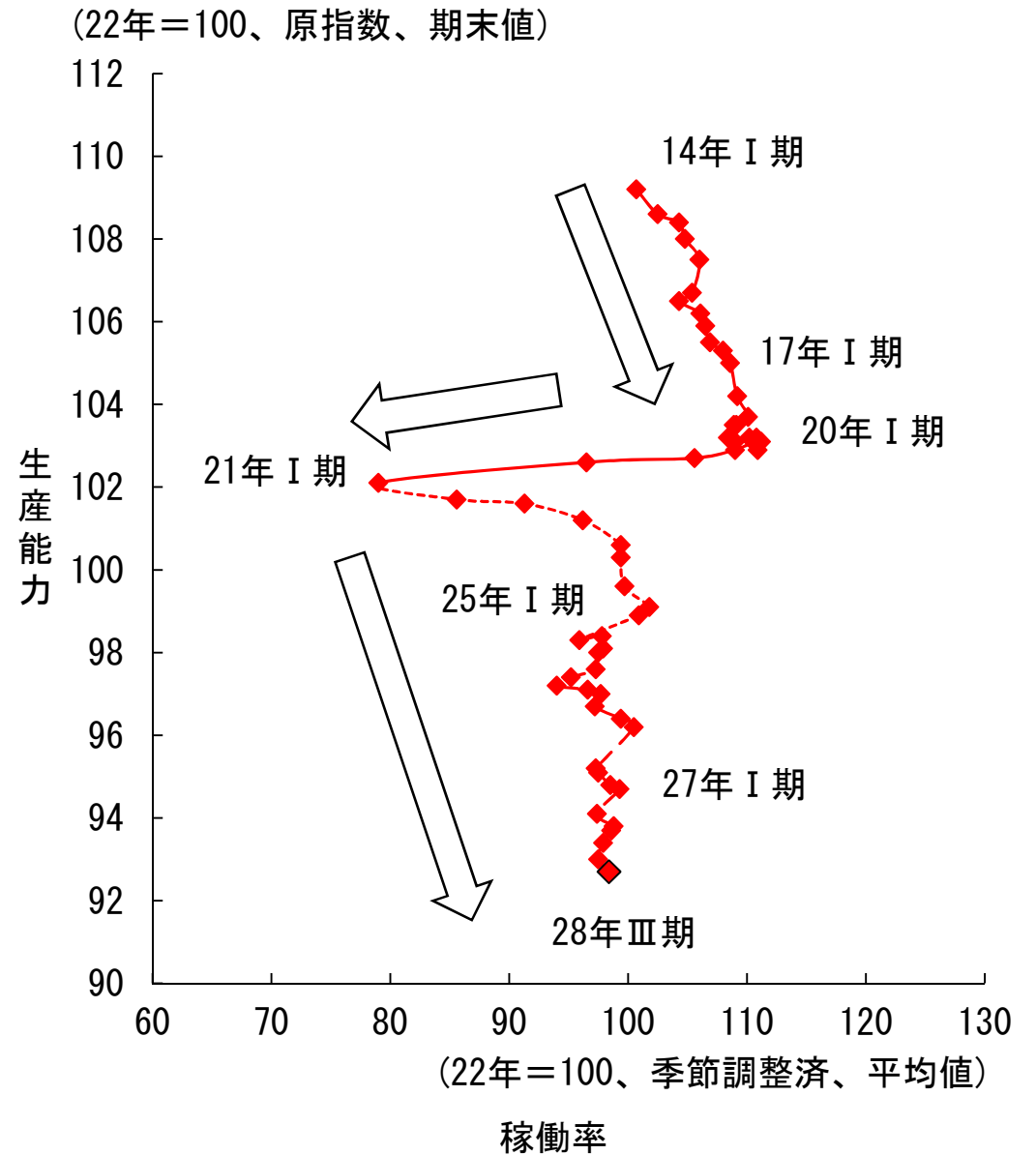
(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

# 稼働率と生産能力の循環図(機械工業、非機械工業)

## 機械工業



## 非機械工業



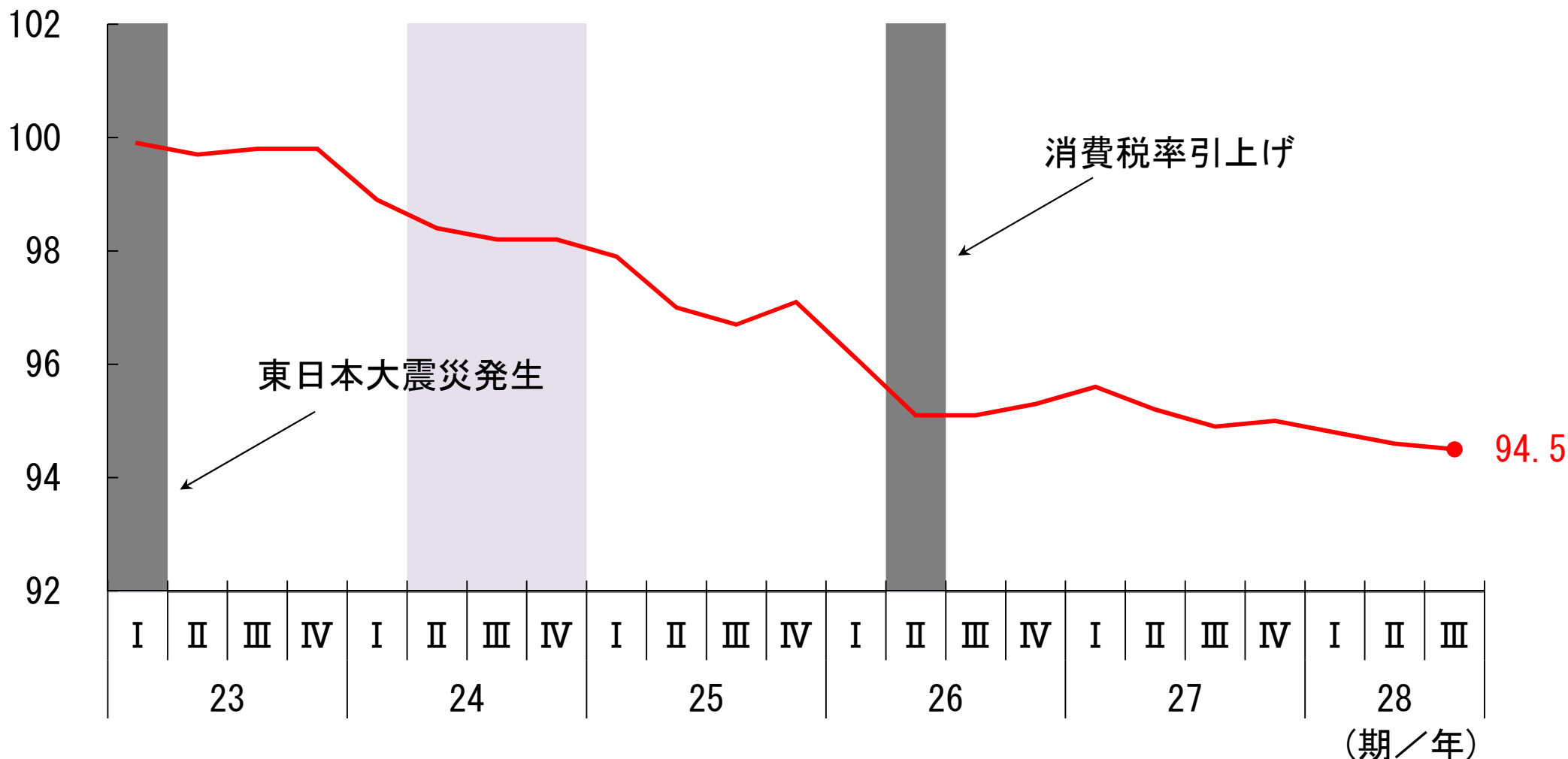
(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。



# 製造工業生産能力指数の動向

・平成28年7-9月期の製造工業生産能力指数は94.5(前期比-0.1%)と3期連続の低下。

(22年=100、原指数)



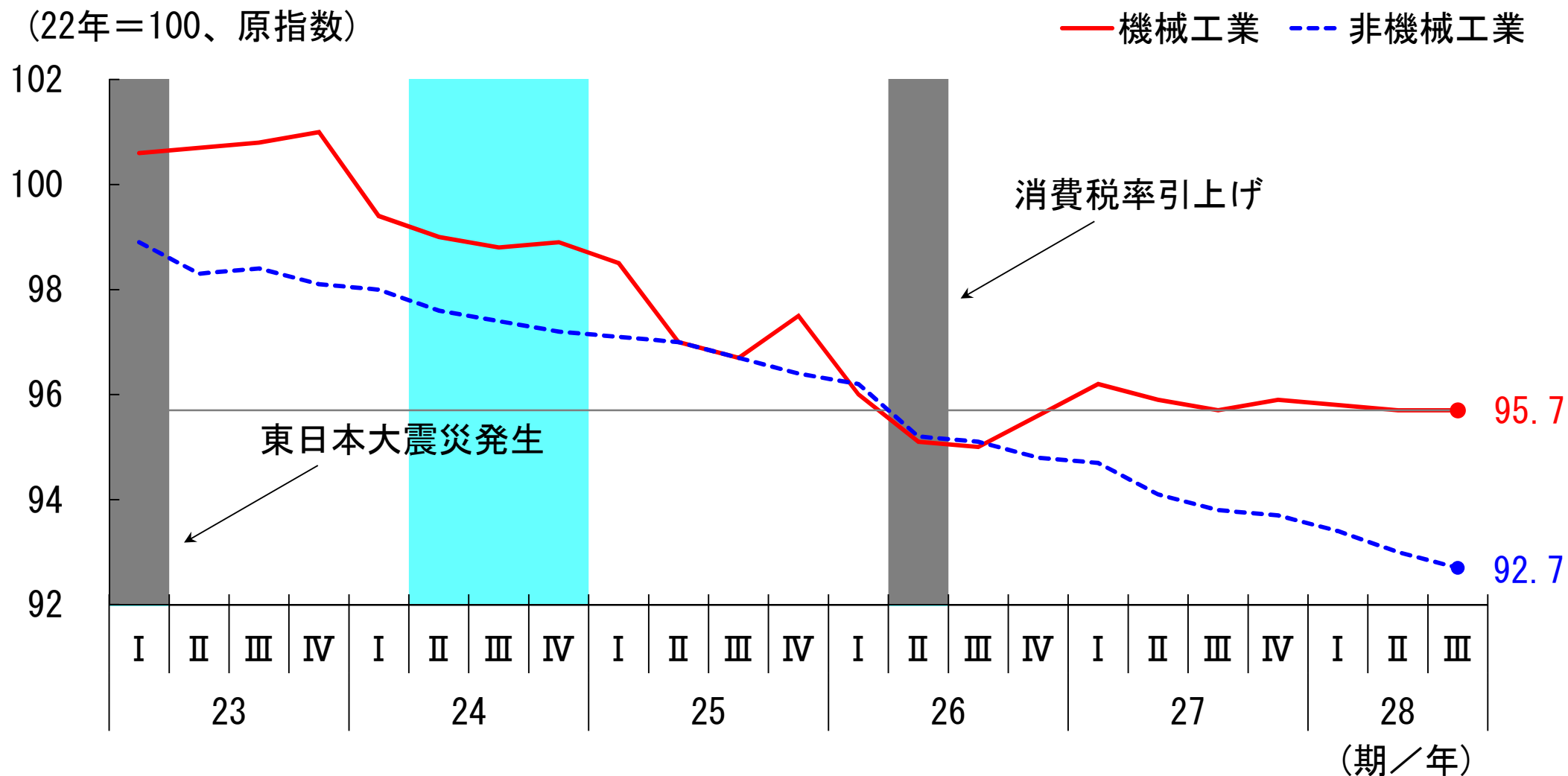
(注)1. 製造工業生産能力指数とは、月々の製造工業の生産能力を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

# 機械工業と非機械工業の生産能力指数の動向

- ・平成28年7-9月期の機械工業の生産能力指数は95.7(前期比0.0%)と横ばい。
- ・非機械工業の生産能力指数は92.7(前期比-0.3%)と20期連続の低下。



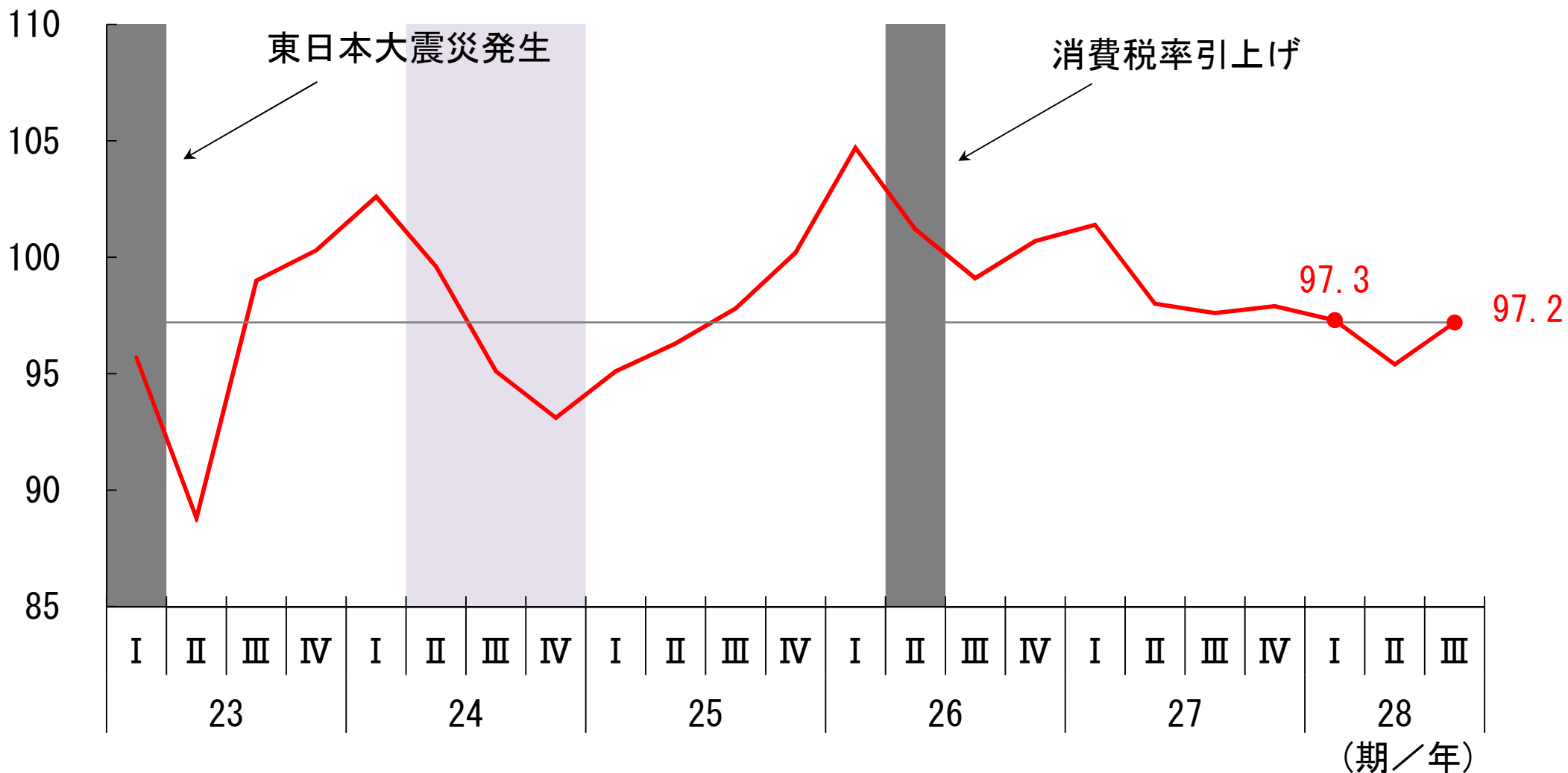
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

# 製造工業稼働率指数の動向

- ・平成28年7-9月期の製造工業稼働率指数は97.2(前期比1.9%)と3期ぶりの上昇。
- ・平成28年1-3月期の97.3以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



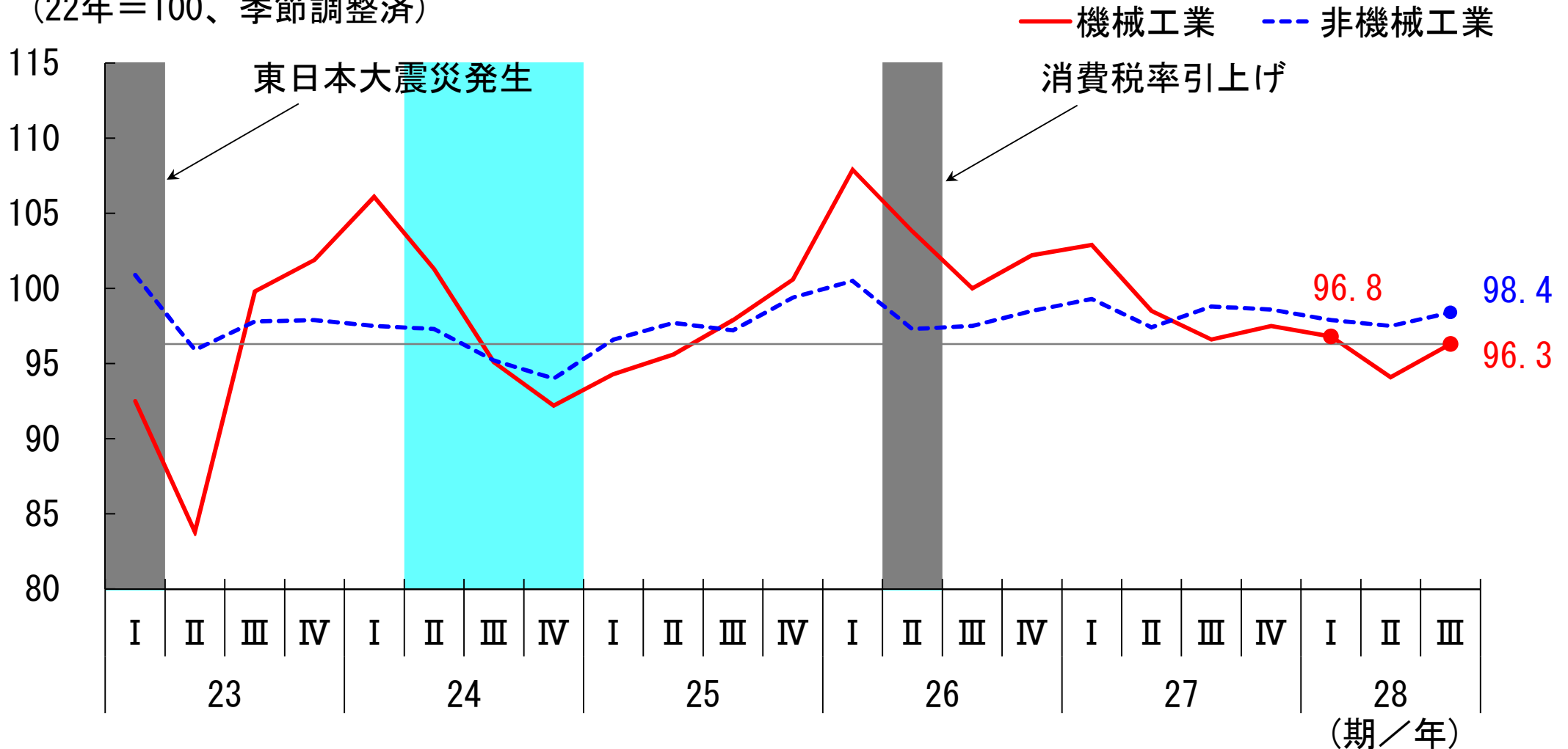
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

# 機械工業と非機械工業の稼働率指数の動向

- 平成28年7-9月期の機械工業の稼働率指数は96.3(前期比2.3%)と3期ぶりの上昇。  
平成28年1-3月期の96.8以来の指数水準。
- 非機械工業の稼働率指数は98.4(前期比0.9%)と4期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)

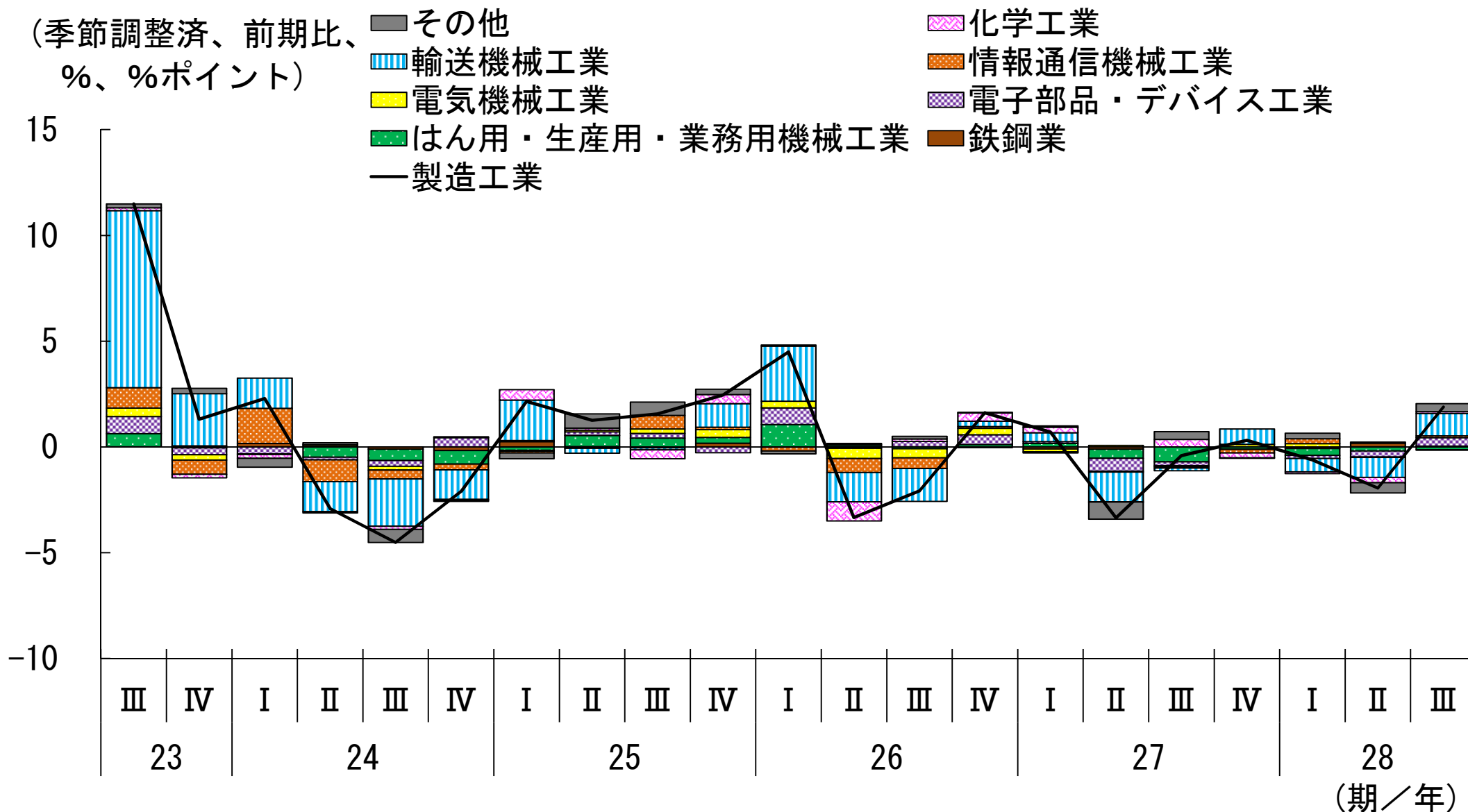


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

# 製造工業稼働率指数への業種別寄与度分解

- 平成28年7-9月期の製造工業稼働率指数は、はん用・生産用・業務用機械工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前期比1.9%の上昇。



(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

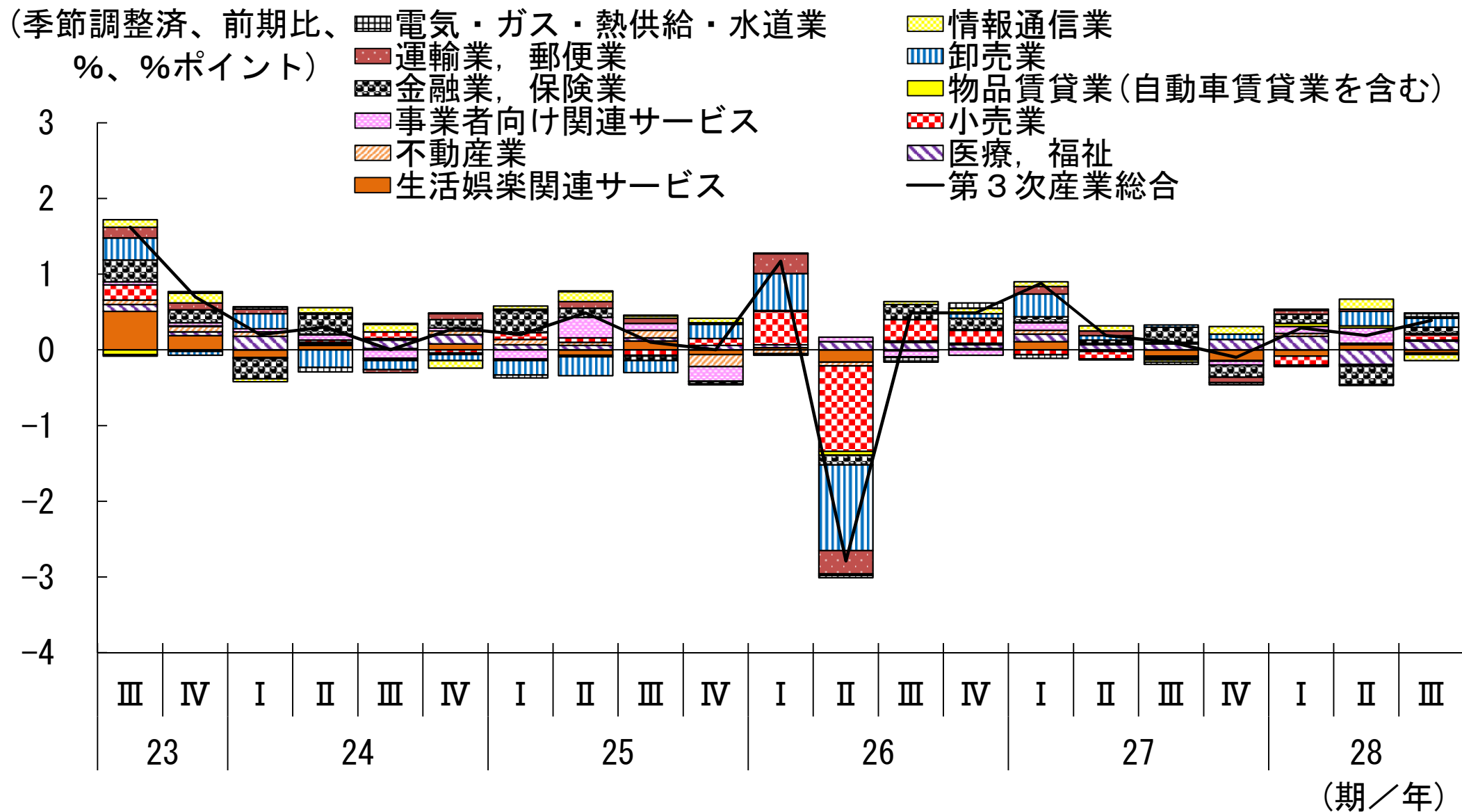
# 第3次産業活動の動向

# 平成28年7-9月期の第3次産業活動指数の状況

指数名	指数水準	前期比(%)	指数の動き	過去の水準
第3次産業活動指数	104.2	0.4	3期連続の上昇	平成20年4-6月期の104.5以来
卸売業、小売業除く第3次産業活動指数	106.3	0.1	3期連続の上昇	平成22年基準で最高水準
<b>対個人／対事業所サービス活動</b>				
広義対個人サービス	104.6	0.2	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の105.2以来
広義し好的対個人サービス	100.6	-0.1	2期ぶりの低下	平成26年4-6月期の99.7以来
広義非選択的個人サービス	108.1	0.3	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の109.2以来
広義対事業所サービス	103.6	0.5	2期連続の上昇	平成20年10-12月期の105.8以来
<b>消費向け／投資向けサービス活動</b>				
消費向けサービス	104.6	0.2	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の105.2以来
投資向けサービス	101.5	-0.5	2期ぶりの低下	平成28年1-3月期の96.8以来
<b>観光・飲食関連産業活動</b>				
観光関連産業	105.0	-0.5	2期ぶりの低下	平成27年1-3月期の104.7以来
飲食関連産業	101.0	0.2	5期ぶりの上昇	平成27年10-12月期の101.7以来
<b>製造依存型／非製造依存型サービス活動</b>				
製造業依存型サービス	97.7	1.9	2期ぶりの上昇	平成26年1-3月期の98.5以来
非製造業依存型サービス	105.3	0.1	2期連続の上昇	平成20年7-9月期の106.4以来
<b>形態別サービス活動</b>				
インフラ関連型サービス(試算値)	107.4	0.3	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の107.5以来
財の取引仲介型サービス(試算値)	98.8	0.6	2期連続の上昇	平成26年1-3月期の101.9以来
生活関連型サービス(試算値)	107.6	0.4	2期ぶりの上昇	平成28年1-3月期の107.8以来

# 第3次産業活動指数への業種別寄与度分解

・平成28年7-9月期の第3次産業活動指数は、情報通信業などが低下したものの、医療、福祉などが上昇したため、前期比0.4%の上昇。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

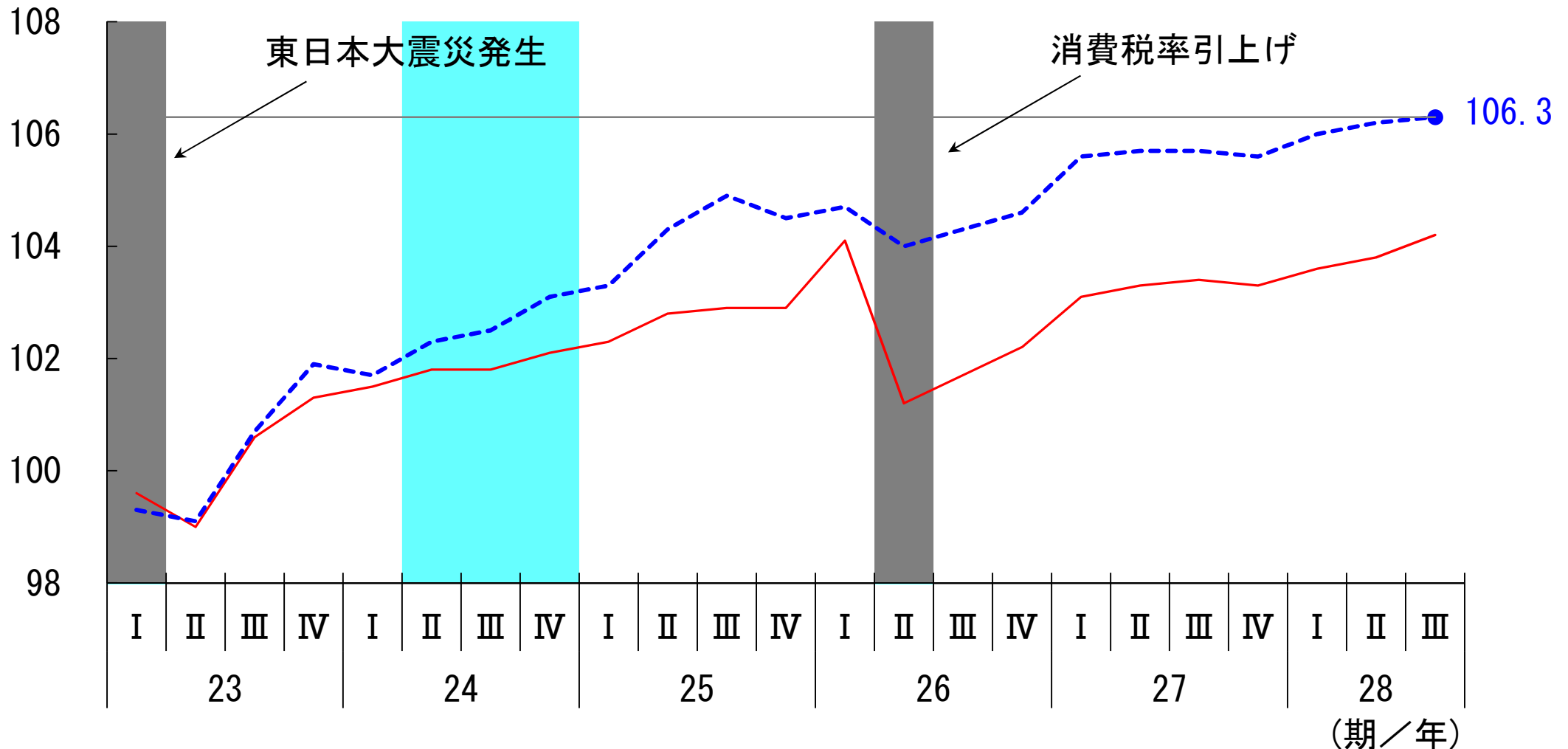


# 卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数

・平成28年7-9月期の卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数は、106.3(前期比0.1%)と3期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

— 第3次産業総合    - - - 除く卸売業、小売業



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 第3次産業活動指数を大きく動かした個別系列

		業種名	前期比	寄与率
○ 第3次産業総合を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	医療, 福祉	0.9%	30.9%
	内訳業種			
	2位の業種	卸売業	0.8%	30.6%
	内訳業種	各種商品卸売業	7.6%	32.5%
		電気機械器具卸売業	3.0%	13.8%
	3位の業種	金融業, 保険業	0.8%	20.8%
内訳業種	流通業務	12.6%	19.1%	
	金融仲介業務	1.0%	8.8%	
○ 第3次産業総合を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	情報通信業	- 0.7%	- 21.2%
	内訳業種	ソフトウェア業	- 2.8%	- 19.2%
		情報処理・提供サービス業	- 1.0%	- 4.9%
	2位の業種	生活娯楽関連サービス	- 0.4%	- 11.6%
	内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	- 9.7%	- 12.0%
		美容業	- 4.9%	- 8.3%
3位の業種	事業者向け関連サービス	- 0.3%	- 5.6%	
内訳業種	機械設計業	- 4.6%	- 5.6%	
	土木・建築サービス業	- 1.4%	- 4.4%	

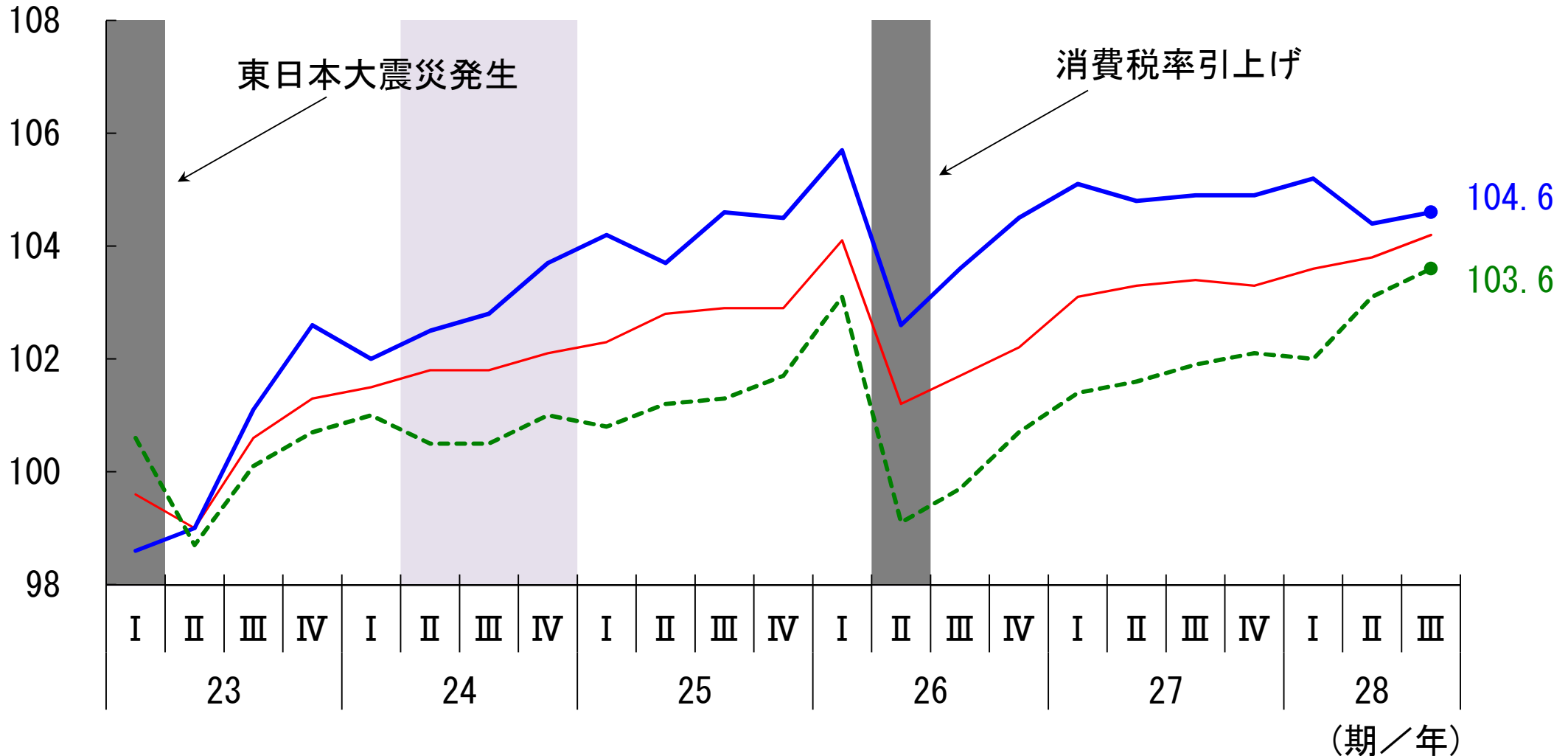
寄与率：第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い全業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の広義対個人サービス活動指数は、104.6(前期比0.2%)と2期ぶりの上昇。
- ・広義対事業所サービス活動指数は、103.6(前期比0.5%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済) — 第3次産業総合 — 広義対個人サービス - - - 広義対事業所サービス



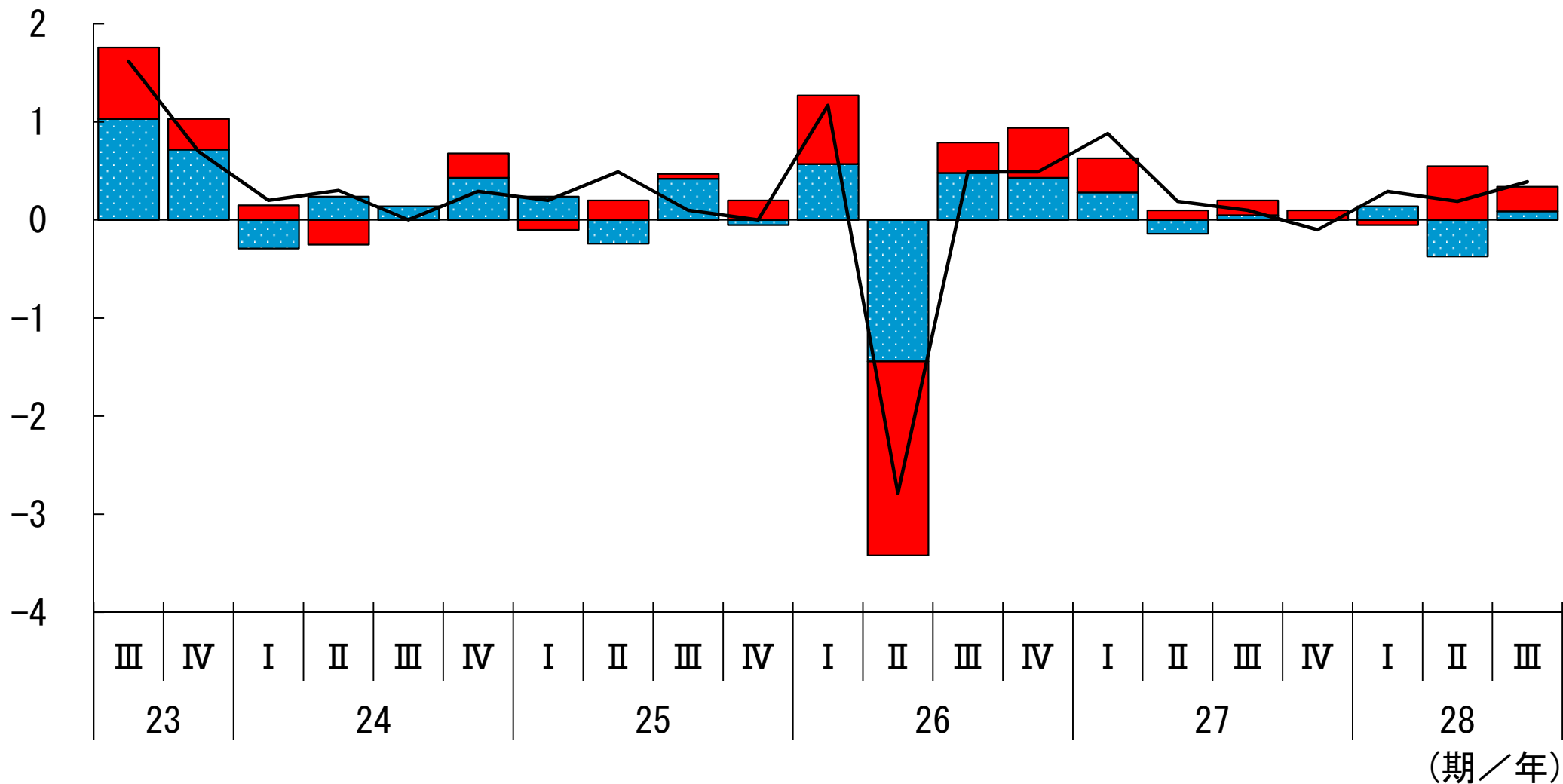
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動(全体への寄与度)の動向

- 平成28年7-9月期の第3次産業活動指数は、広義対事業所サービス、広義対個人サービスともに上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

■ 広義対事業所サービス ■ 広義対個人サービス — 第3次産業総合



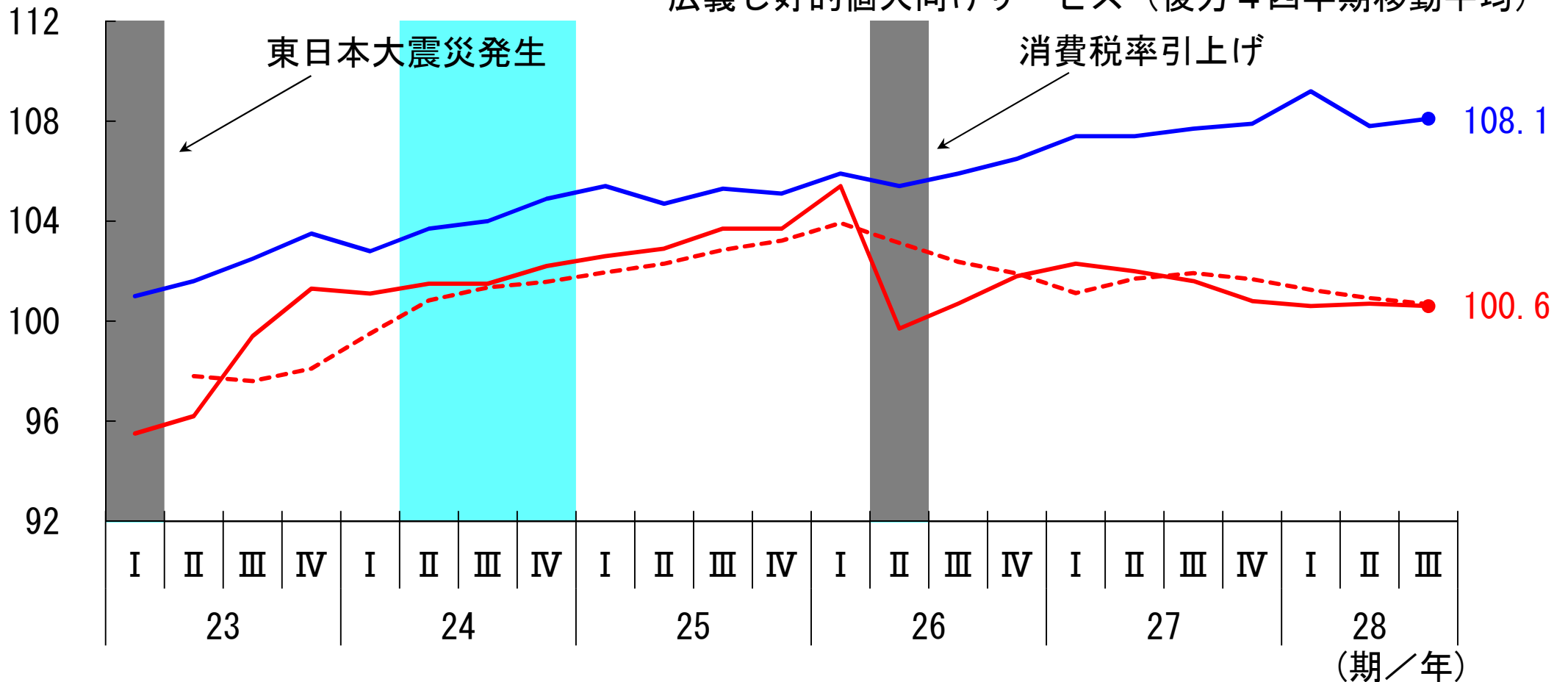
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、108.1(前期比0.3%)と2期ぶりの上昇。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、100.6(前期比-0.1%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)

- 広義非選択的個人向けサービス
- 広義し好的個人向けサービス
- - - 広義し好的個人向けサービス (後方4四半期移動平均)



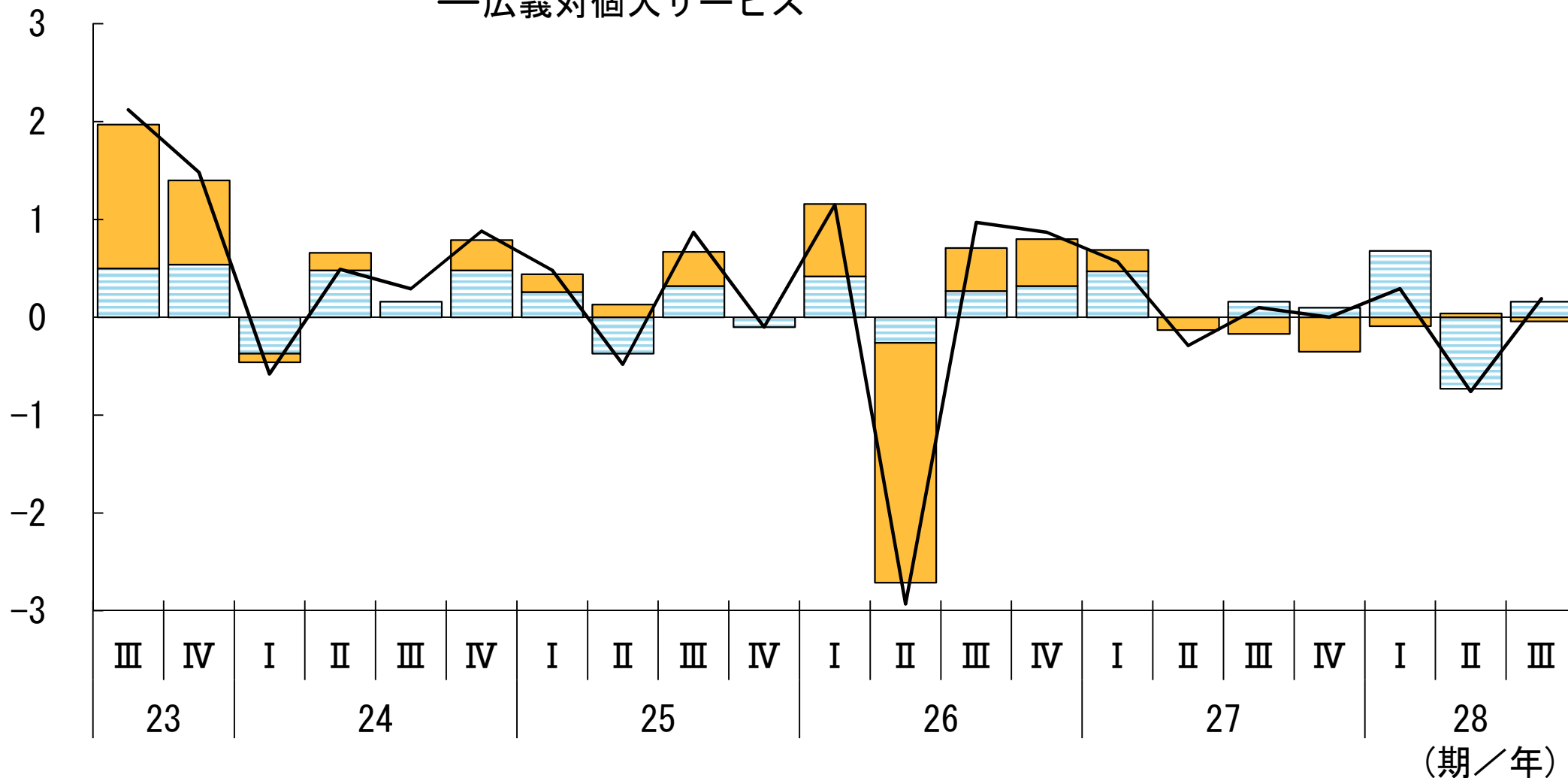
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 内訳別にみた広義対個人サービス活動の動向

- 平成28年7-9月期の広義対個人サービス活動指数は、広義し好的個人向けサービスが低下したものの、広義非選択的個人向けサービスが上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

■ 広義し好的個人向けサービス    ■ 広義非選択的個人向けサービス  
 — 広義対個人サービス



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 広義対事業所サービス、し好的個人向けサービスを大きく動かした個別系列

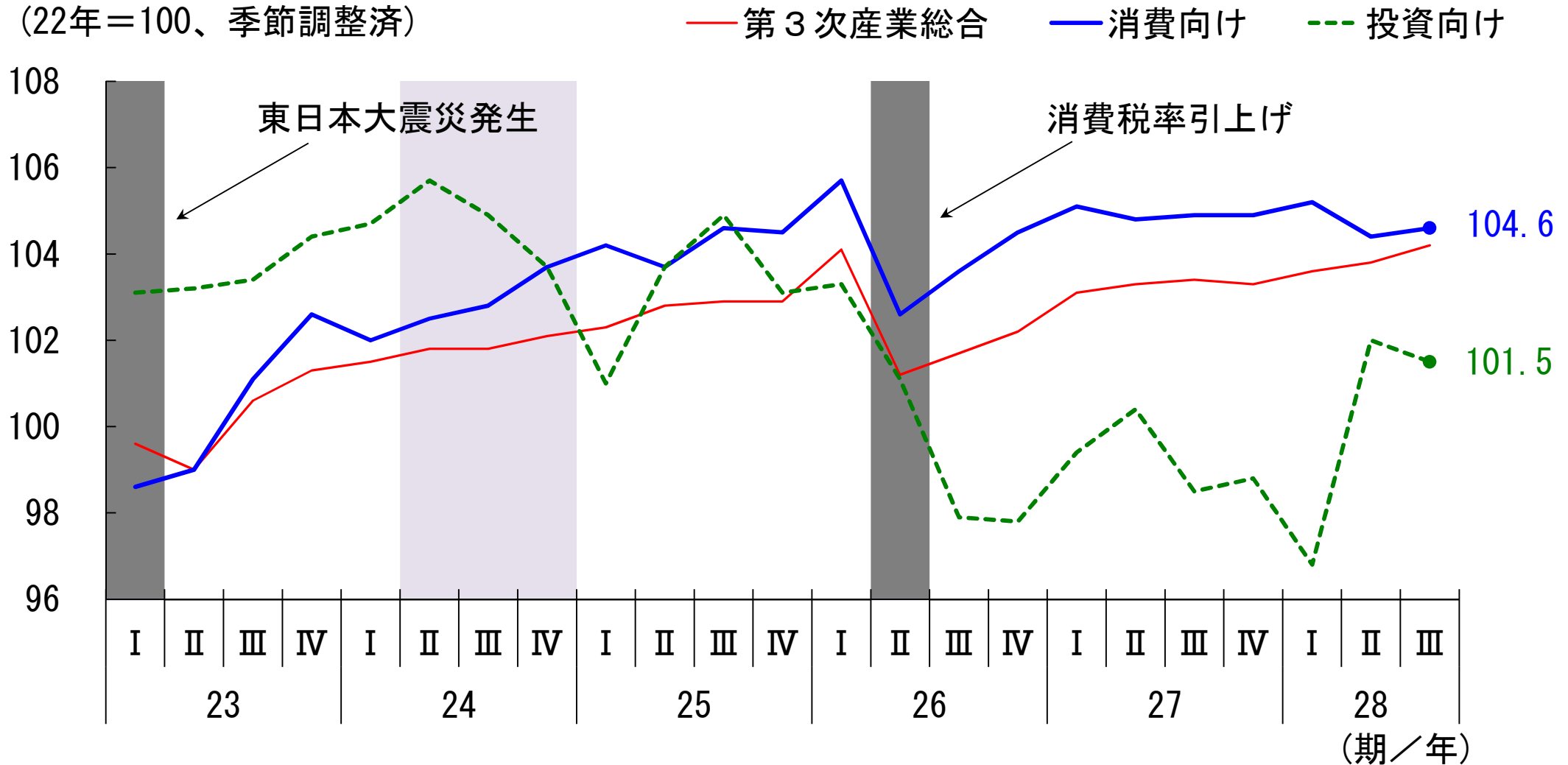
	業種名	前期比
○ 広義対事業所サービスを <b>上昇</b> 方向へ引張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	各種商品卸売業	7.6%
	流通業務	12.6%
	電気機械器具卸売業	3.0%
	金融仲介業務	1.0%
	職業紹介・労働者派遣業	1.4%
○ 広義対事業所サービスを <b>低下</b> 方向へ引張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	医薬品・化粧品等卸売業	- 2.9%
	その他の情報処理・提供サービス業	- 3.3%
	受注ソフトウェア	- 1.4%
	全銀システム取扱高	- 1.4%
	建設コンサルタント	- 2.7%

	業種名	前期比
○ し好的個人向けサービスを <b>低下</b> 方向へ引張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	- 9.7%
	美容業	- 4.9%
	パチンコホール	- 2.5%
	自動車小売業	- 1.6%
	織物・衣服・身の回り品小売業	- 1.1%
○ し好的個人向けサービスを <b>上昇</b> 方向へ引張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	機械器具小売業	5.6%
	マンション分譲(首都圏)	8.9%
	その他の小売業	0.6%
	ゴルフ場	3.8%
	普通洗濯業	4.5%

# 消費向け／投資向けサービス活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の消費向けサービス活動指数は、104.6(前期比0.2%)と2期ぶりの上昇。
- ・投資向けサービス活動指数は、101.5(前期比-0.5%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)



- (注) 1. 消費向けサービス活動指数は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス(小売業や娯楽業など)の動きを表す系列。  
 投資向けサービス活動指数は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス(ソフトウェア開発、機械器具卸売業など)の動きを表す系列。  
 2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

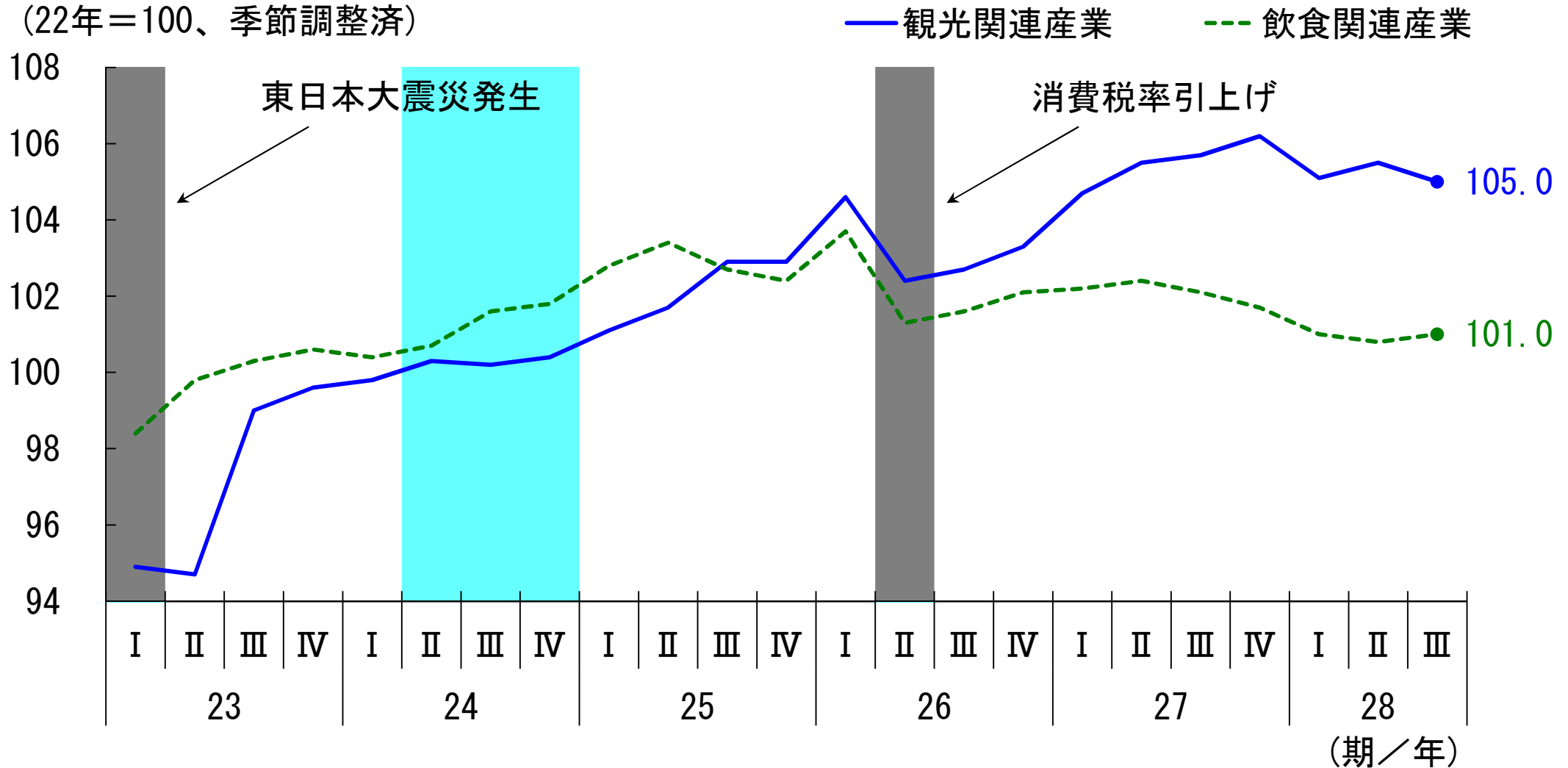
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。



# 観光関連産業活動指数、飲食関連産業活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期の観光関連産業活動指数は、105.0(前期比-0.5%)と2期ぶりの低下。
- ・飲食関連産業活動指数は、101.0(前期比0.2%)と5期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)



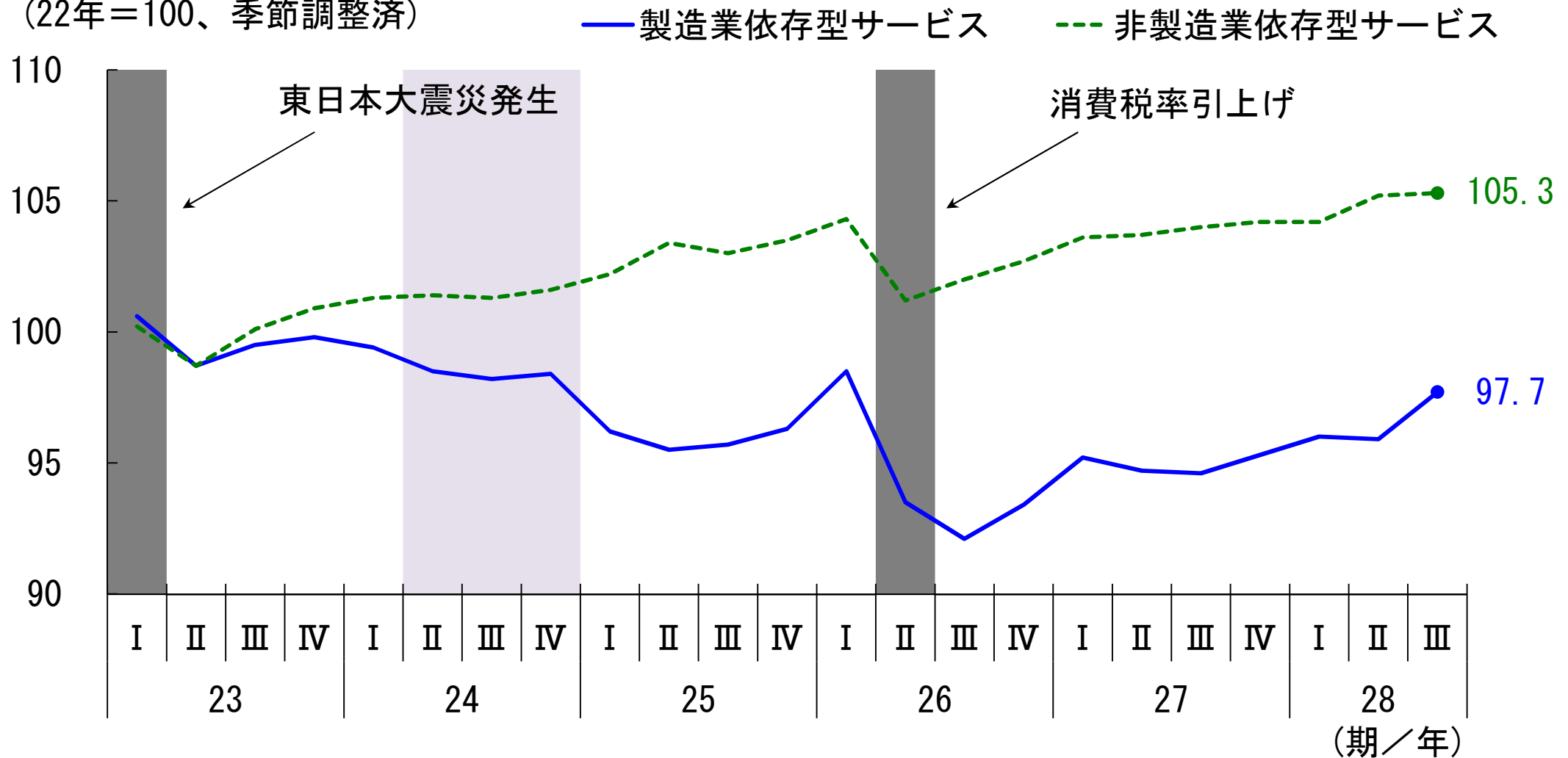
(注)1. 観光関連産業活動指数には、鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶等の旅客運送業、道路施設提供業(高速道路)、旅館、ホテル等の宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。  
 飲食関連産業活動指数には、デパート等の各種商品小売業(飲食料品部門)、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフード等の飲食店、飲食サービス業が含まれる。  
 2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 製造業／非製造業依存型事業所向けサービス活動指数の動向

- 平成28年7-9月期の製造業依存型サービス活動指数は、97.7(前期比1.9%)と2期ぶりの上昇。
- 非製造業依存型サービス活動指数は、105.3(前期比0.1%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)



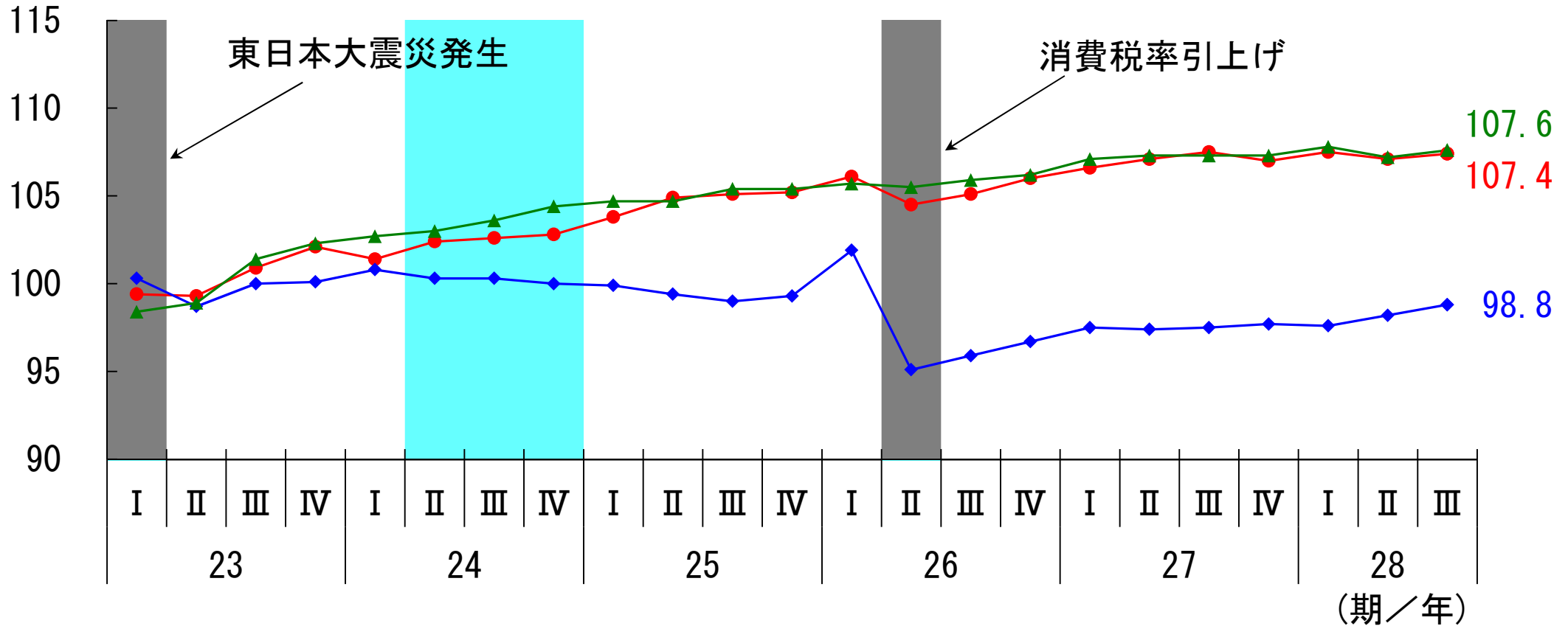
(注)1. 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している。  
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 形態別にみたサービス活動指数の動向

- ・平成28年7-9月期のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、107.4(前期比0.3%)と2期ぶりの上昇。
- ・財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、98.8(前期比0.6%)と2期連続の上昇。
- ・生活関連型サービス活動指数(試算値)は、107.6(前期比0.4%)と2期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済) ●インフラ(試算値) ◆財の取引仲介(試算値) ▲生活関連(試算値)



(注)1. インフラ型サービス活動指数、財の取引仲介型サービス活動指数、生活関連型サービス活動指数は、それぞれ下記大分類業種の季節調整済指数を各ウェイトで加重平均して算出した試算値。なお、第3次産業活動指数の11ある大分類業種のうち「事業者向け関連サービス」は、この3つの試算値には含めていない。

- ・インフラ型サービス活動指数：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、金融業、保険業
- ・財の取引仲介型サービス活動指数：卸売業、物品賃貸業(自転車賃貸業を含む)、小売業、不動産業
- ・生活関連型サービス活動指数：医療、福祉、生活娯楽関連サービス

2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# インフラ型サービス活動指数(試算値)への業種別寄与度分解

・平成28年7-9月期のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、情報通信業が低下したものの、金融業、保険業などが上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

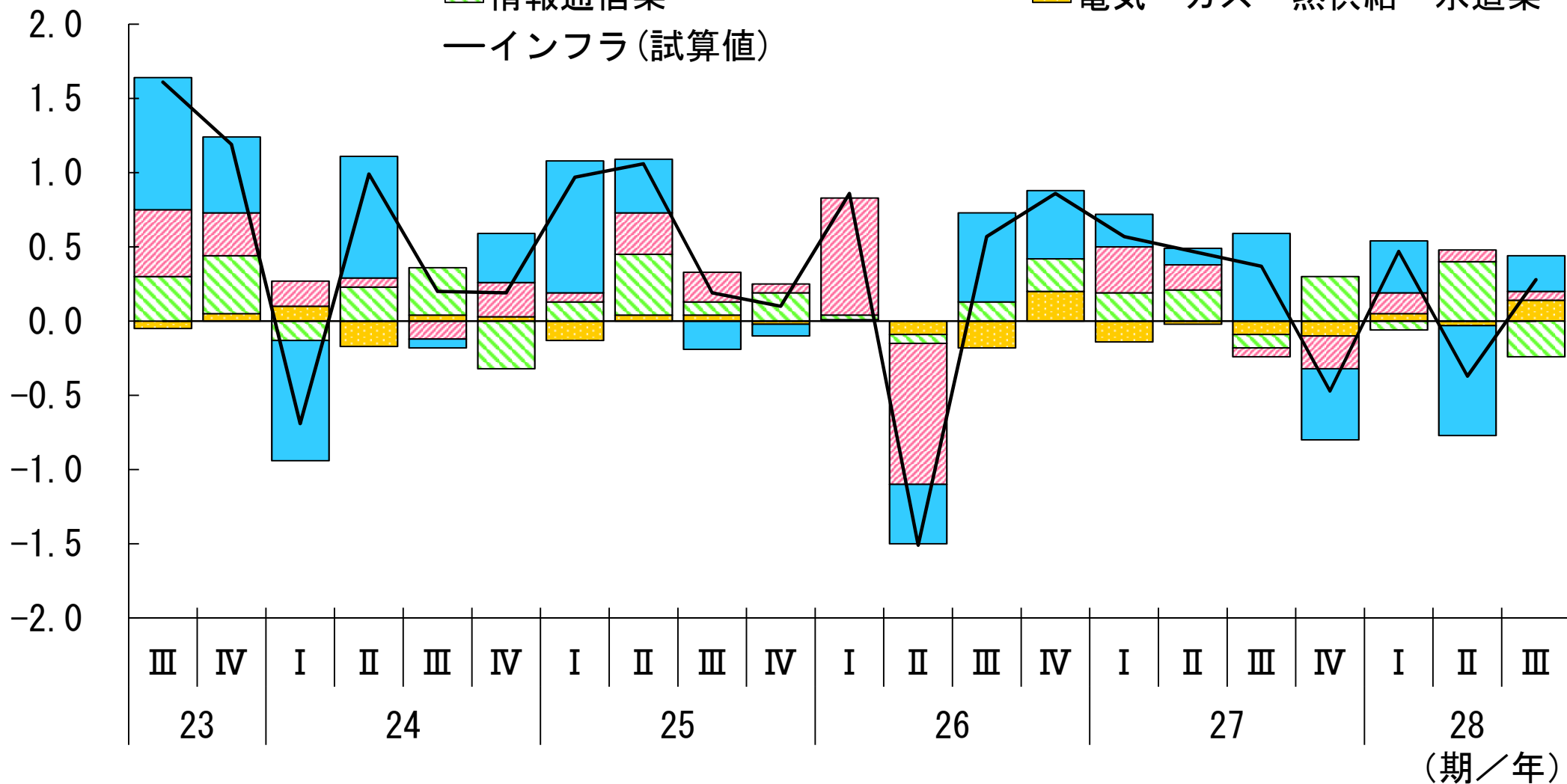
■ 金融業, 保険業

■ 運輸業, 郵便業

■ 情報通信業

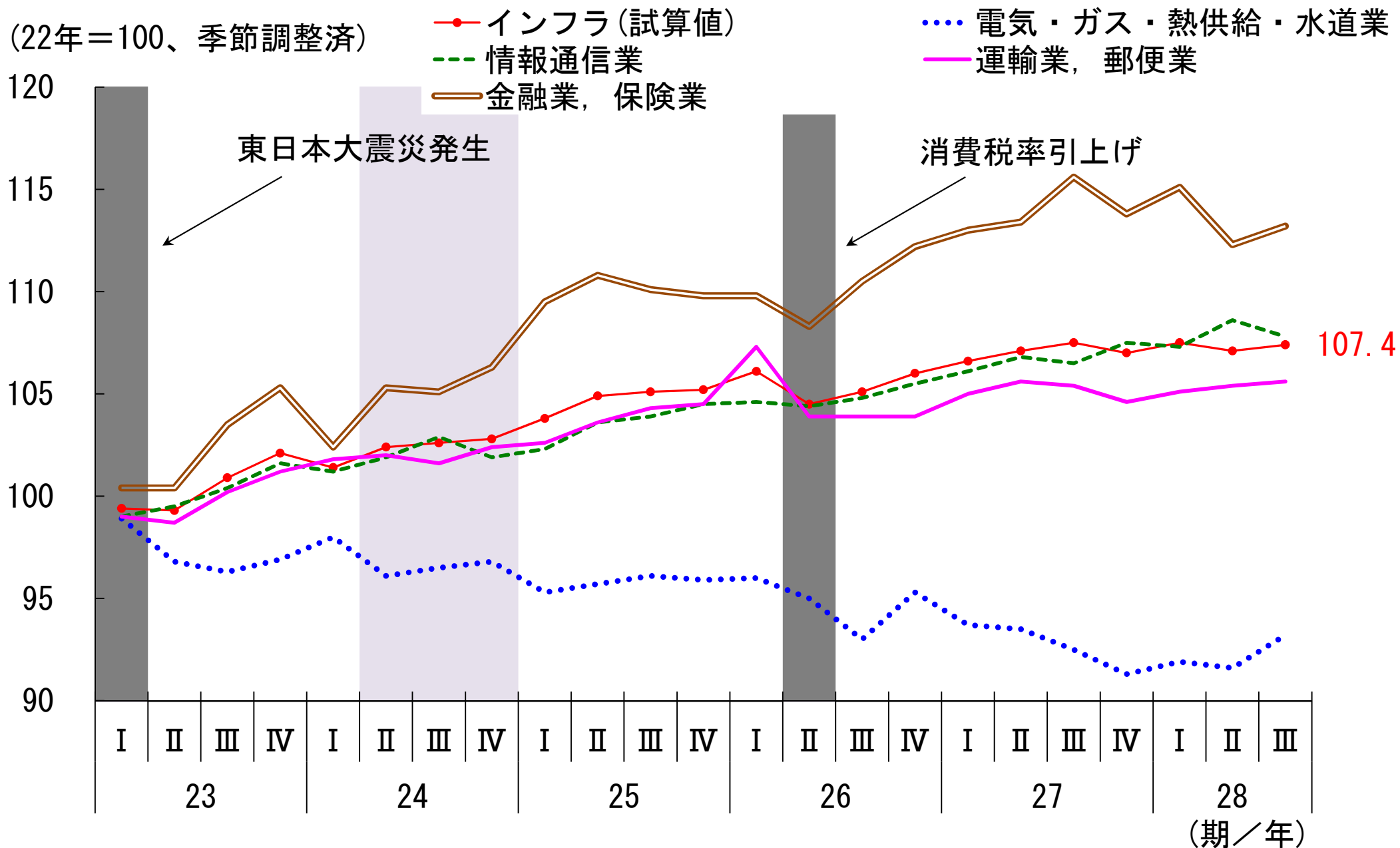
■ 電気・ガス・熱供給・水道業

— インフラ(試算値)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

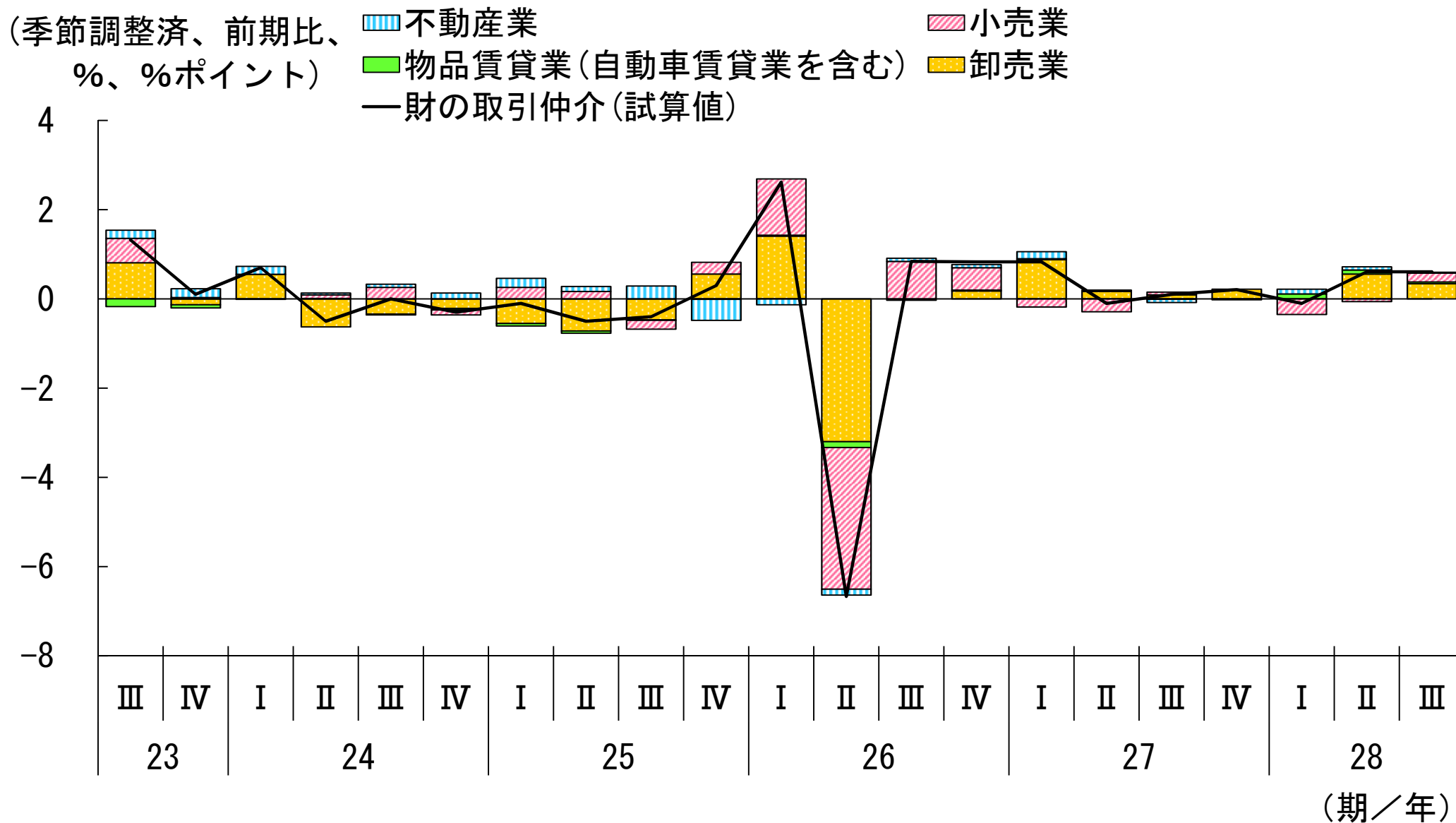
# 業種別に見たインフラ型サービス活動の動向



(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)への業種別寄与度分解

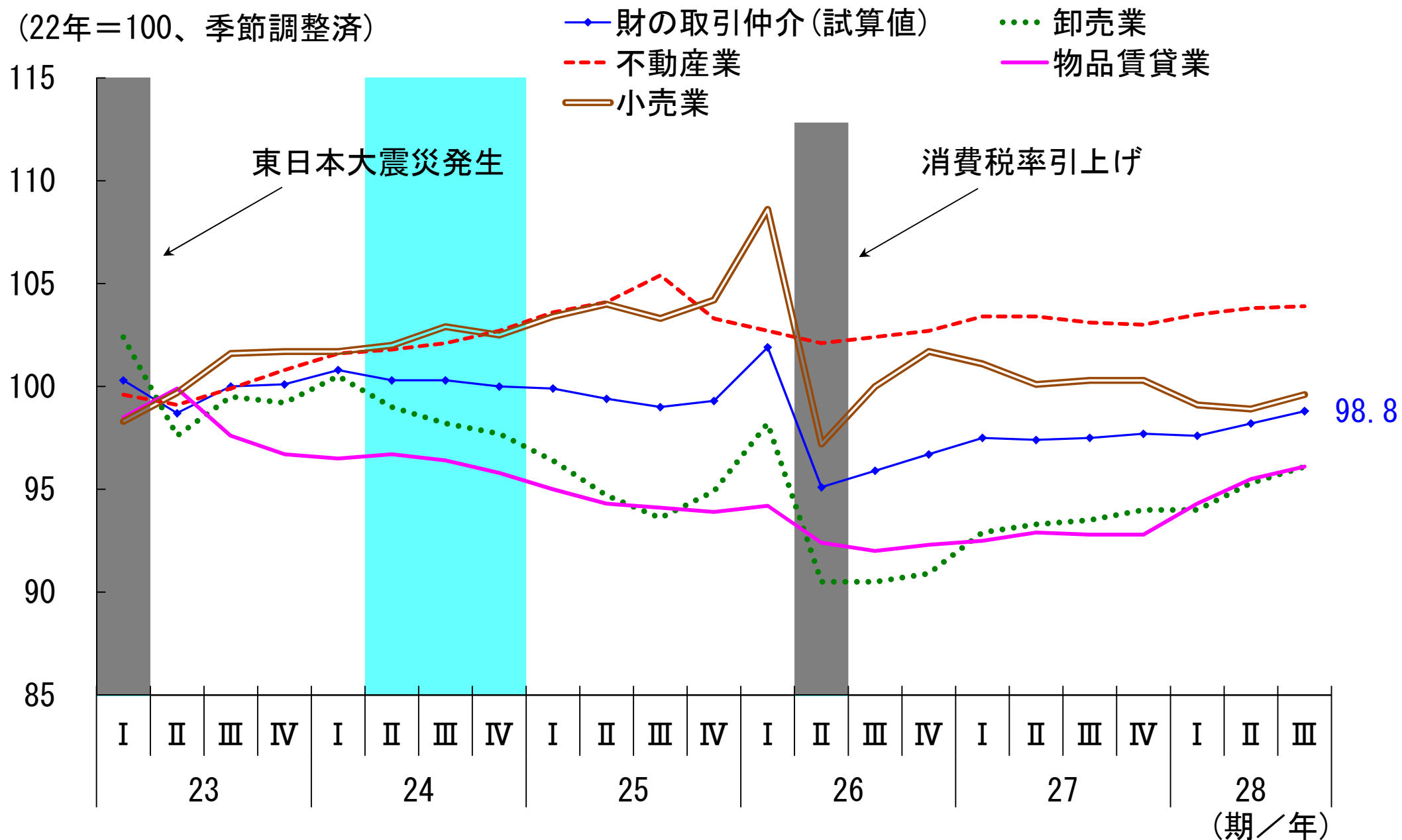
・平成28年7-9月期の財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、卸売業などが上昇。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 業種別にみた財の取引仲介型サービス活動の動向

(22年=100、季節調整済)



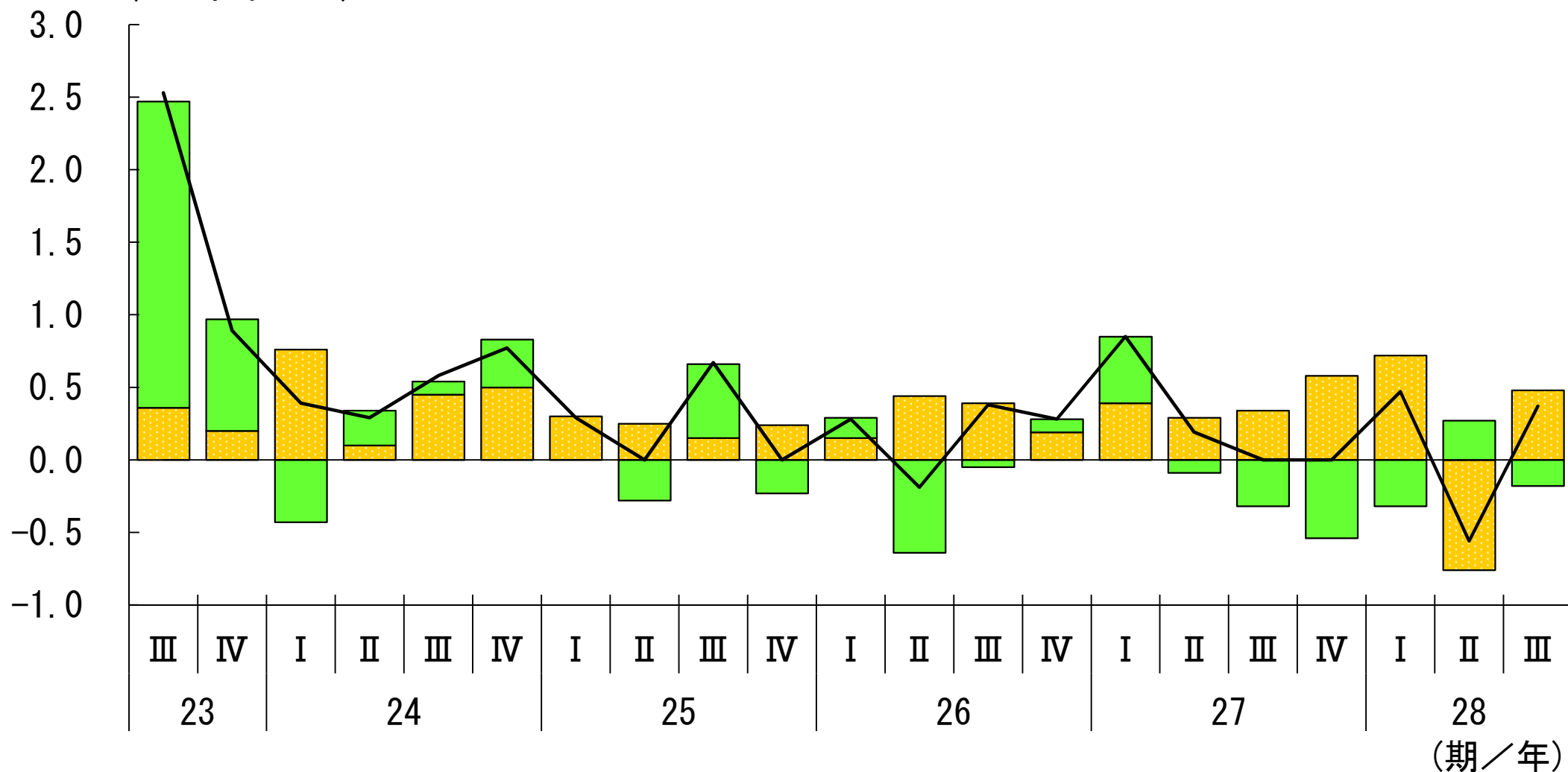
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

# 生活関連型サービス活動指数(試算値)への業種別寄与度分解

・平成28年7-9月期の生活関連型サービス活動指数(試算値)は、生活娯楽関連サービスが低下したものの、医療、福祉が上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

■生活娯楽関連サービス ■医療、福祉 —生活関連(試算値)



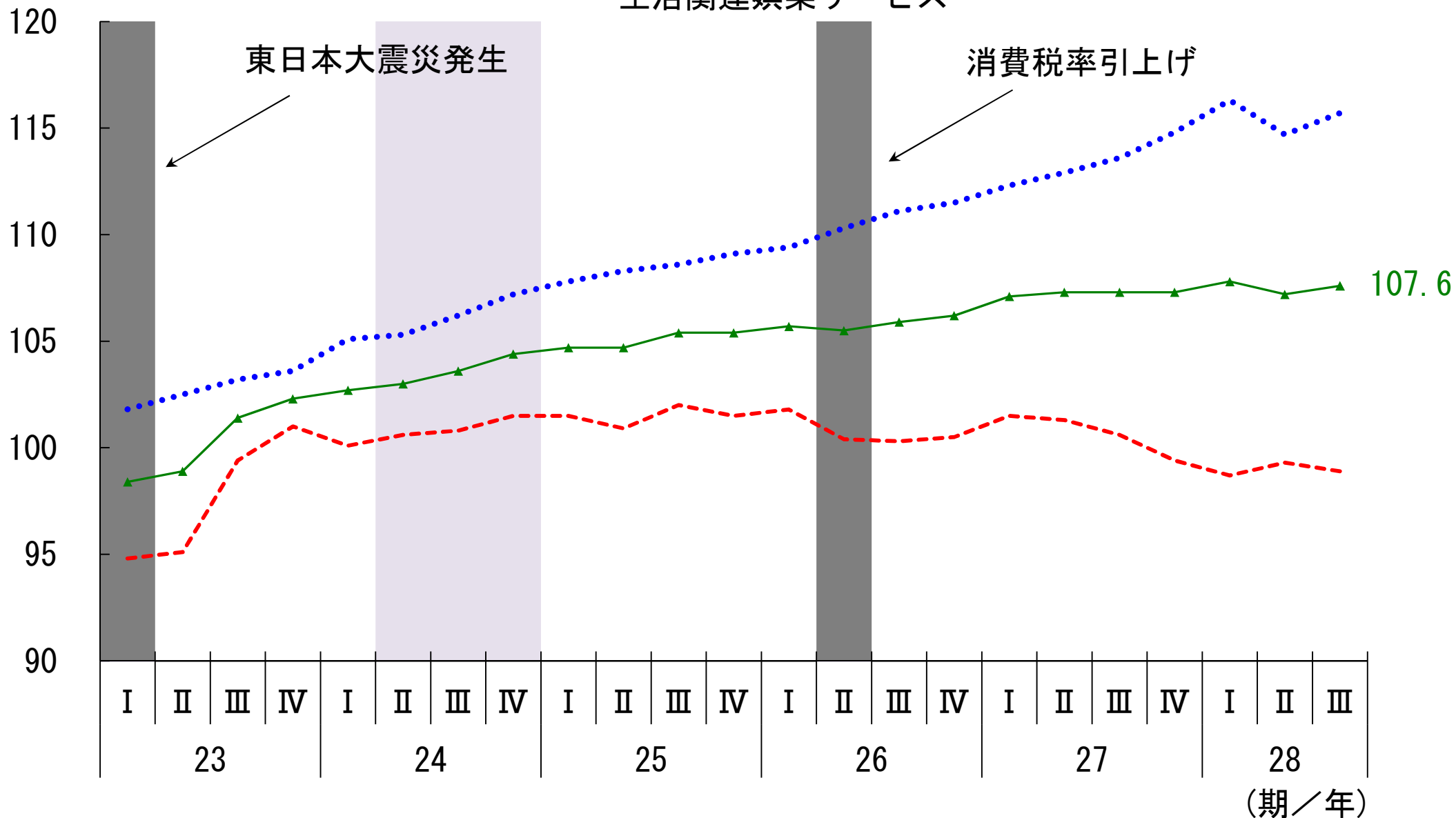
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。



# 業種別にみた生活関連型サービス活動の動向

(22年=100、季節調整済)

▲ 生活関連(試算値)
 ●●● 医療, 福祉  
- - - 生活関連娯楽サービス



(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

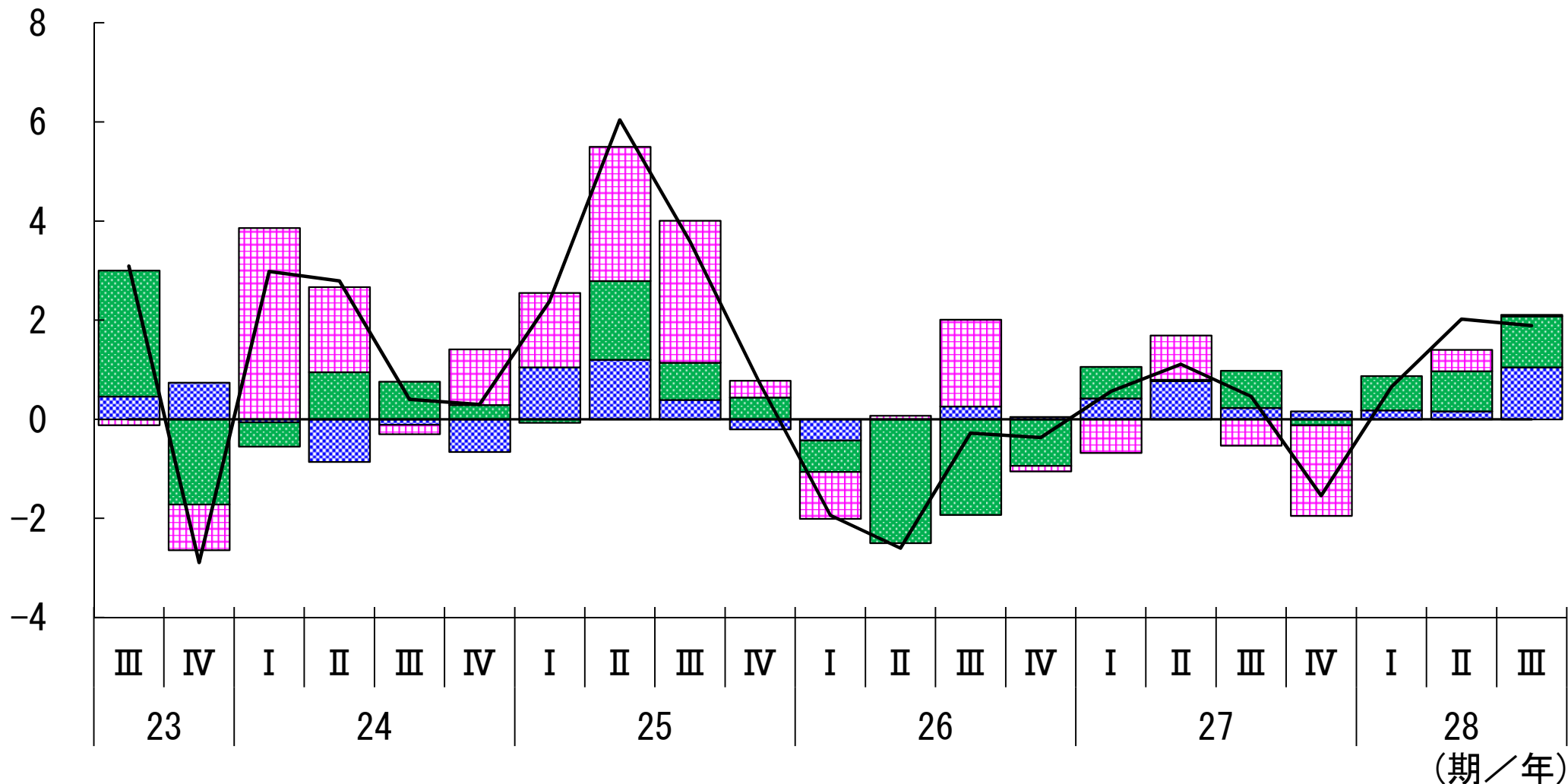
# 建設業活動の動向

# 建設業活動指数への部門別寄与度分解

平成28年7-9月期の建設業活動指数は民間企業設備（非住宅+土木）などが上昇したため、前期比1.9%の上昇。

(季節調整済、前期比、  
%、%ポイント)

■ 公共 ■ 民間住宅 ■ 民間企業設備（非住宅+土木） — 建設業活動



(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

# こちら是非御覧下さい！

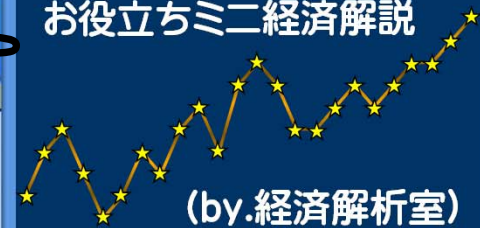
◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります



ぜひお手持ちの電話で  
QRコードを読み取って  
下さい！！

◎ お役立ちミニ経済解説：  
総合ポータルサイトです

お役立ちミニ経済解説



お役立ちミニ経済解説、  
お役立ちミニ経済分析、  
お役立ちミニ経済指標、  
お役立ちミニ経済解説など